HIKVISION

4Kデコード対応モニター

取扱説明書

法的情報

本書について

- 本書には、本製品の使用および管理に関する説明が記載されています。以下に記載されている写真、図表、画像、およびその他すべての情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本ドキュメントに記載されている情報は、ファームウェアの更新やその他の理由により、予告なく変更される場合があります。本ドキュメントの最新バージョンは、Hikvisionのウェブサイト（https://www.hikvision.com）でご確認ください。別段の合意がない限り、Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. またはその関連会社（以下「Hikvision」といいます）は、明示的または黙示的な保証を行いません。
- 本ドキュメントをご利用の際は、本製品のサポートに関する訓練を受けた専門家の指導および支援を受けてください。

本製品について

本製品のアフターサービスサポートは、購入された国または地域でのみご利用いただけます。

知的財産権の承認

- Hikvision は、本ドキュメントに記載された技術に関連する著作権および/または特許を所有しています。本文書に記載された製品に具現化された技術に関する著作権および／または特許を所有しており、これには第三者から取得したライセンスが含まれる場合があります。
- 本文書の一部（テキスト、画像、グラフィックなどを含む）は、Hikvision に帰属します。書面による許可なく、本文書のいかなる部分も、その全部または一部を、いかなる手段によっても抜粋、複製、翻訳、または改変することはできません。
- HIKVISION およびその他の Hikvision の商標およびロゴは、さまざまな法域において Hikvision の所有物です。
- その他、記載されている商標およびロゴは、それぞれの所有者に帰属します。
- HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE 「HDMI」、「HDMI High-Definition Multimedia インターフェース」、「HDMI Trade dress」、および「HDMI」ロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

法的免責事項

- 適用される法律で許容される最大限の範囲において、本書および記載された製品、およびそのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアは、「現状有姿」かつ「すべての欠陥およびエラーを含むまま」で提供されます。HIKVISION は、明示的または黙示を問わず、商品性、満足のいく品質、または

特定の目的への適合性を含みますが、これらに限定されません。本製品の使用は、お客様ご自身の責任において行ってください。

いかなる場合においても、HIKVISIONは、特別損害、結果的損害、付随的損害、または間接損害（事業利益の損失、事業の中断、データの損失、 システムの破損、または文書の紛失による損害を含みますが、これらに限定されません。これらは、契約違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任、またはその他の理由に基づくものであるかを問わず、本
本製品の使用に関連して生じた損害（事業利益の損失、事業の中断、データの損失、システムの破損、文書の損失などを含むがこれらに限定されない）について、たとえHIKVISIONがそのような損害または損失の可能性について通知を受けていた場合であっても、一切の責任を負いません。

- お客様は、インターネットの性質上、固有のセキュリティリスクが存在することを認識し、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、
ウイルス感染、またはその他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシーの漏洩、その他の損害について、一切の責任を負わないものとします。ただし、必要に応じて、HIKVISIONは適時に技術サポートを提供します。

- お客様は、本製品をすべての適用法令に従って使用することに同意するものとします。また、お客様の使用が適用法令に準拠していることを確保する責任は、お客様のみが負うものとします。
特に、お客様は、第三者の権利（宣伝権、知的財産権、またはデータ保護およびその他のプライバシー権を含むが、これらに限定されない）を侵害しない方法で本製品を使用する責任を負います。
パブリシティ権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシー
権利を含みますが、これらに限定されません。お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、、あるいは人権侵害を助長する活動など、いかなる禁止された最終用途にも本製品を使用してはなりません。

- 本文書と適用される法律との間に矛盾が生じた場合は、後者が優先されます。

© Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. All rights reserved.

適用モデル

本マニュアルは、4K デコードモニターに適用されます。

記号の規定

本書で使用される記号の定義は以下の通りです。

記号	説明
Note	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供します。
Caution	回避しなければ、機器の損傷、データの損失、性能の低下、または予期せぬ結果につながる可能性のある、潜在的に危険な状況を示します。
Danger	回避しなければ、死亡または重傷につながる可能性のある、リスクの高い危険を示しています。そのレベルの危険は、回避しないと死亡または重傷につながる可能性があります。

安全上の注意

Danger

- 注意：本装置は、屋内環境において電波干渉を引き起こす可能性があります。必要な予防措置を講じる必要があります。
- 本製品を使用する際は、国および地域の電気安全規制を厳守してください。
- 入力電圧は、IEC60950-1 規格に準拠し、SELV（安全極低電圧）および 100～240 VAC または 12 VDC/2A の限定電源の両方を満たす必要があります。
- 本機器が 3 極電源プラグを使用する場合は、接地された電源コンセントに正しく接続する必要があります。
- 電源プラグとコンセントのみによって電源のオン/オフを行う機器の場合、コンセントは機器の近くに設置され、容易にアクセスできるものでなければなりません。
- 電源プラグを抜き、コンセントから電源を切った後も、電気が残っている可能性があるため、むき出しの部品（インレットの金属接点など）には触れないでください。また、少なくとも 5 分間は待ってください。
- 危険な通電状態を示す「ϟ」のマークが付いている機器の場合、端子に接続される外部配線は、訓練を受けた担当者が設置する必要があります。
- 本機器を不安定な場所に設置しないでください。本機器が落下し、重傷や死亡事故につながるおそれがあります。

- 本装置がウォールマウントまたは天井取り付けに対応している場合、取り付け面は、本装置の重量の 3 倍、ただし 50 N以上）の追加荷重に耐えられるものでなければなりません。設置中は、本機器および関連する取り付け具がしっかりと固定された状態を保つ必要があります。
- 本機器にコイン型/ボタン型電池が内蔵されている場合：

1. 電池を飲み込まないでください。化学火傷の危険があります！
2. 本製品にはコイン型／ボタン型電池が含まれています。コイン型／ボタン型電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の内部火傷を引き起こし、死に至る可能性があります。
3. 新品および使用済みの電池は、子供の手の届かない場所に保管してください。
4. 電池ケースがしっかりと閉まらない場合は、本製品の使用を中止し、子供の手の届かない場所に保管してください。
5. 電池を飲み込んだ、あるいは体内のどこかに挿入してしまった可能性があると思われる場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
6. 注意：誤った種類の電池と交換すると、爆発の危険があります。
7. 不適切な種類の電池と交換すると、安全装置が機能しなくなるおそれがあります（例えば、一部のリチウム電池の場合など）。
8. 電池を火や高温のオーブンに投げ込んだり、機械的に押しつぶしたり、切断したりしないでください。爆発の原因となる恐れがあります。
9. 電池を極端に高温の環境に放置しないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出の原因となる恐れがあります。
10. バッテリーを極端に低い気圧にさらさないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出の原因となる恐れがあります。
11. 使用済みのバッテリーは、指示に従って廃棄してください。

- 必ず、デバイスセットのメーカーが推奨するキャビネット、スタンド、または取り付け方法を使用してください。
- 必ず、機器セットを安全に支えることができる家具を使用してください。
- 必ず、機器セットが支持家具の端からはみ出していないことを確認してください。
- デバイスに接続されているコードやケーブルは、つまずいたり、引っ張られたり、つかまれたりしないよう、必ず適切に配線してください。
- デバイスセットを不安定な場所に置かないでください。
- 家具と機器セットの両方を適切な支持物に固定せずに、背の高い家具（食器棚や本棚など）の上に機器セットを置かないでください。
- デバイスセットとそれを支える家具の間に、布やその他の材質が挟まるような場所に、デバイスセットを絶対に置かないでください。
- おもちゃやリモコンなど、子供が登りたくなるような物を、デバイスやデバイスが置かれている家具の上に絶対に置かないでください。
- 音声再生機能付きのデバイスについては、聴覚障害を防ぐため、大音量のレベルで長時間聴かないでください。

Caution

- 保護レベルが IPx4 未満の場合、本機器は水滴や水しぶきにさらさないでください。また、花瓶など、液体が入った物を本機器の上に置かないでください。
- 山頂、鉄塔、森林などの特殊な環境では、デバイスの入力端子にサージサプレッサを設置してください。
- 電源コードに接続された端子から本機器に電力を供給する場合は、主電源への接続において、端子の電圧および配線が正しいことを確認してください。
- 通気口のある機器の場合、新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどの物品で通気口を覆って、通気口を塞がないようにしてください。また、ベッド、ソファ、ラグ、その他の同様の表面に機器を置いて、通気口を塞がないようにしてください。
- 本機器に通気口があり、放熱のために距離の要件が定められている場合は、十分な通気性を確保するために、本機器の周囲に適切な距離を保ってください。
- 本機器の設置が必要な場合は、

  1. 取扱説明書の指示に従って本機器を設置してください。
  2. 怪我を防ぐため、本機器は設置手順に従って設置面にしっかりと固定してください。
- 本機器を移動または使用する際は、垂直な状態を保ってください。
- 注意：ブラケットが当社の特定の機種専用に設計されている場合は、対応する機器でのみ使用してください。他の機器で使用すると、不安定になり、怪我の原因となる可能性があります。
- 注意：本機器を当社の特定のブラケットに取り付ける必要がある場合は、対応するブラケットのみを使用してください。他のもの（カート、スタンド、キャリアなど）を使用すると、不安定になり、怪我の原因となる可能性があります。ブラケットモデルの詳細については、本機器のデータシートを参照してください。
- インターフェースはモデルによって異なります。詳細については、製品のデータシートをご参照ください。
- 本機器に電源アダプタが付属しておらず、機器の裸線配線が必要な場合：
- 危険な通電端子に接続される本装置の外部配線は、訓練を受けた担当者による設置が必要です。
- デバイスの配線、設置、または分解を行う前に、必ず電源が切断されていることを確認してください。
- 電源装置または本機は、接地された電源コンセントに接続する必要があります。
- 電源には高電圧が流れています。分解しないでください。
- 電源装置または機器から煙、異臭、異音がした場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターにご連絡ください。
- 本機器を自分で配線する必要がある場合は、電源用のケーブルを選択してください。
  。標準的なワイヤーストリッパーを使用して、所定の位置で被覆を剥がしてください。重大な事故を防ぐため、被覆を剥がす長さは適切にし、導体を露出させないでください。

目次

第1章 製品紹介 1
1.1 前面パネル 1
1.2 背面パネル 2
第2章 リモコン 3
第3章 設置とケーブル接続 5
3.1 ベースの設置 5
3.2 電源コードと信号ケーブルを接続する 6
第4章 基本操作 8
4.1 信号ソースの選択 8
4.2 USBメニューの操作 8
4.3 OSDメニューの操作 8
4.4 OSDメニュー 9
第5章 Web設定 12
5.1 デバイスの起動とログイン 12
5.2 ネットワークアドレスの設定 14
5.3 信号ソースの設定 15
5.3.1 ネットワーク信号ソースの追加 15
5.3.2 ネットワーク信号ソースの編集 18
5.3.3 ネットワーク信号ソースの一括削除 18
5.3.4 ネットワーク信号源をビデオウォールに紐付ける 18
5.4 ビデオウォールの操作 19
5.4.1 信号ソースウィンドウのパラメータを編集する 19
5.4.2 シーンの管理 23
5.4.3 プランの管理 24
5.4.4 画面のメンテナンス 25
5.5 画面上の画像効果の設定 26
5.5.1 画面のオン／オフのスケジュール設定 26
5.5.2 その他のパラメータの設定 27
5.6 デバイスのメンテナンス 28
5.6.1 デバイスのステータスの表示 28
5.6.2 システムパラメータの設定 28
5.6.3 HTTP(S)パラメータの設定 31
5.6.4 イベントの設定 32
5.6.5 システムの保守 33
5.6.6 デバイスのセキュリティの維持 36

第1章 製品紹介

1.1 前面パネル

デバイスのフロントパネルにあるボタンと電源インジケータは、以下の通りです。

Figure 1-1 フロントパネルのボタンと電源インジケーター

Table 1-1 ボタンおよび電源インジケーターの説明

ボタン／電源インジケーター	説明
	● すべての入力信号ソースを表示します。 ●すべてのメニューページ：次のページ、またはサブメニューページのパラメータに切り替えます。
	● メインメニューページ：前へ／次へ。 ● サブメニューページ：値を増減します。 ● USB ファイルページ：ファイルを選択します。 ●USB オーディオおよびビデオ再生ページ、およびその他の信号源ページ：音量の増減。
	● 現在の入力信号源を表示します。 ● すべてのメニューページ：OK。
	● メインメニューページ：メインメニューページに入る、またはメインメニューページを終了します。 ● 信号ソースページ：信号ソースページを終了します。 ● USB 再生用のファイル選択：再生。 ● その他のページ：メインメニューページに入る、またはメインメニューページを終了します。
	電源スイッチ。 ●動作状態：短く押すとデバイスの電源がオフになり、オフモードになります。 ●電源オフ状態：短く押すとデバイスの電源が入り、オフモードから抜け出します。

⬭	電源インジケータ。 ● デバイスがオフモードおよびネットワーク待機モードの場合、電源インジケータランプは白く点灯します。 ● デバイスの電源がオンになっている場合、電源インジケータランプは消灯しています。

1.2 背面パネル

本体の背面パネルにあるインターフェースは、次のように定義されています。

Figure 1-2 背面パネルのインターフェース

Table 1-2 インターフェース 説明

インターフェース	説明	インターフェース	説明
HDMI	HDMI デジタル信号 HDMI デジタル信号インターフェース		3.5 mm オーディオ出力インターフェース
USB	USB 2.0 インターフェース	USB	USB 2.0 インターフェース
CONSOLE	デバイスデバッグインターフェース	LAN	1000 Mbps ネットワークインターフェース
リレー	アラーム出力インターフェース	IO	アラーム出力インターフェースIO
RS485	中央制御装置のRS485ポートに接続します		

第2章 リモコン

リモコンを使用して、本機のOSDメニューを操作することができます。リモコンのボタンは、次のように定義されています。

Table 2-1 リモコンのボタン 説明

外観	ボタン	説明
		電源のオン/オフ。短く押すと、本機の電源が入ったり切れたりします。
		ミュート／ミュート解除。デバイスのミュートをオンまたはオフにします。
	FREEZE	現在の画面をフリーズします。
	MENU	● OSD ページに入ります。 ● メインメニューページに戻ります。
	SOURCE	信号源を確認または選択します。
	方向キー	●異なるメニューページやパラメータに切り替えます。 ● パラメータの値を調整します。
	OK	確認、またはサブメニューページに入ります。
		再生／一時停止。選択した画像またはファイルの再生または一時停止を行います。
		停止。現在のファイルまたは画像の再生を停止します。
		前へ/次へ
		繰り返し
		戻る

リモコンを操作するには、赤外線受信機に向けてください。リモコンを操作するのに最適な距離は5メートル以内です。

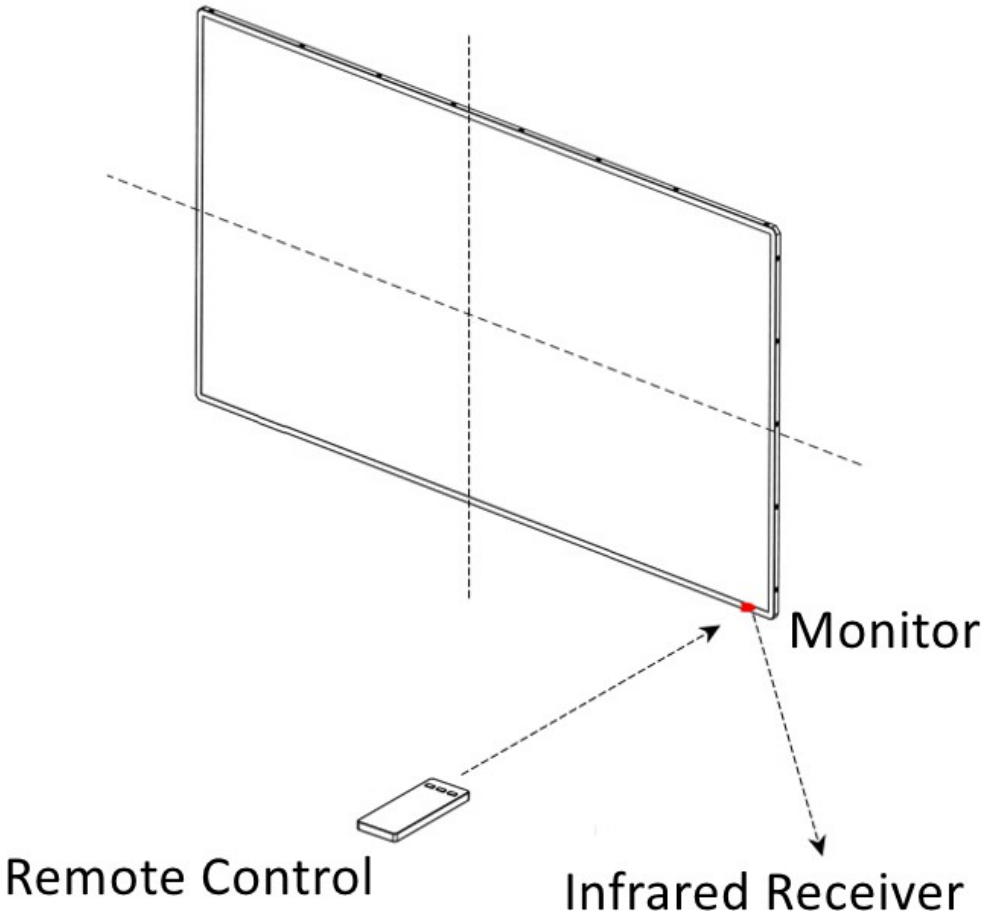


Figure 2-1赤外線受信機に向けてください

Note

上の図のリモコンはあくまで参考用です。

第3章 設置およびケーブル接続

Note

設置図はあくまで参考用です。

3.1 ベースの設置

Step 1 本体をそっと持ち上げます。厚手の柔らかい布を敷いた安定した面に画面を下にして置き、本体の底面がブラケットを取り付ける面の端に近くなるようにします。

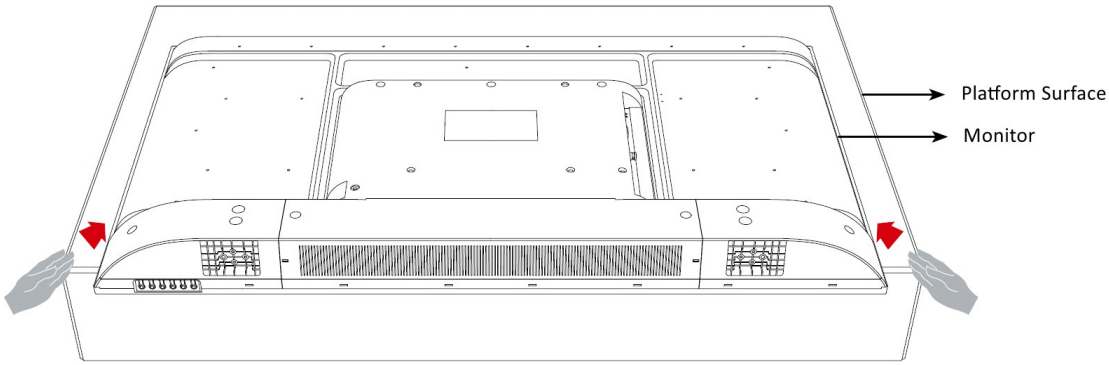


Figure 3-1 本体の設置

Step 2 ベースとネジを取り出します。下図に示すように、画面を正面から見た場合、デバイスの左下に「L」とマークされたベースを、右下に「R」とマークされたベースを取り付けます。

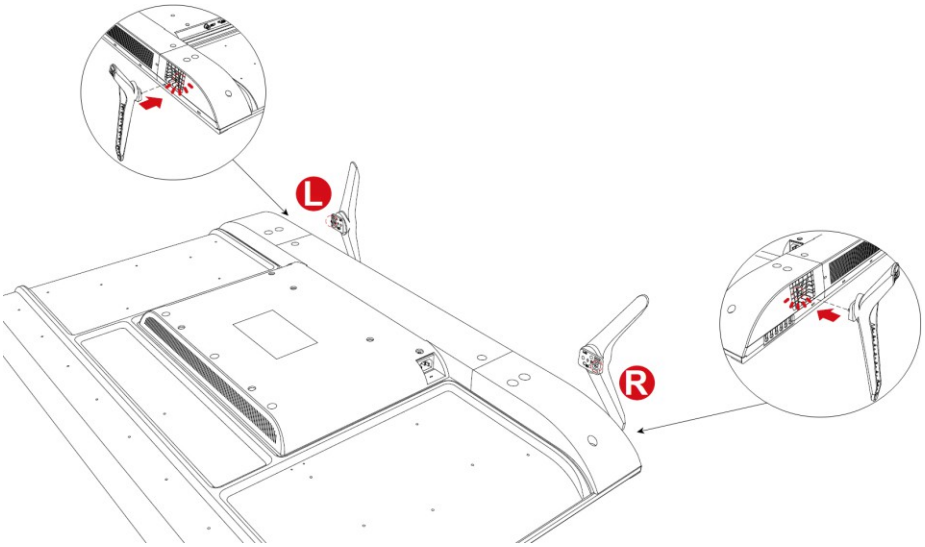


Figure 3-2 ベースの取り付け

Step 3左右のベースを、各側3本ずつM4×16のネジでデバイスの底面に固定します。

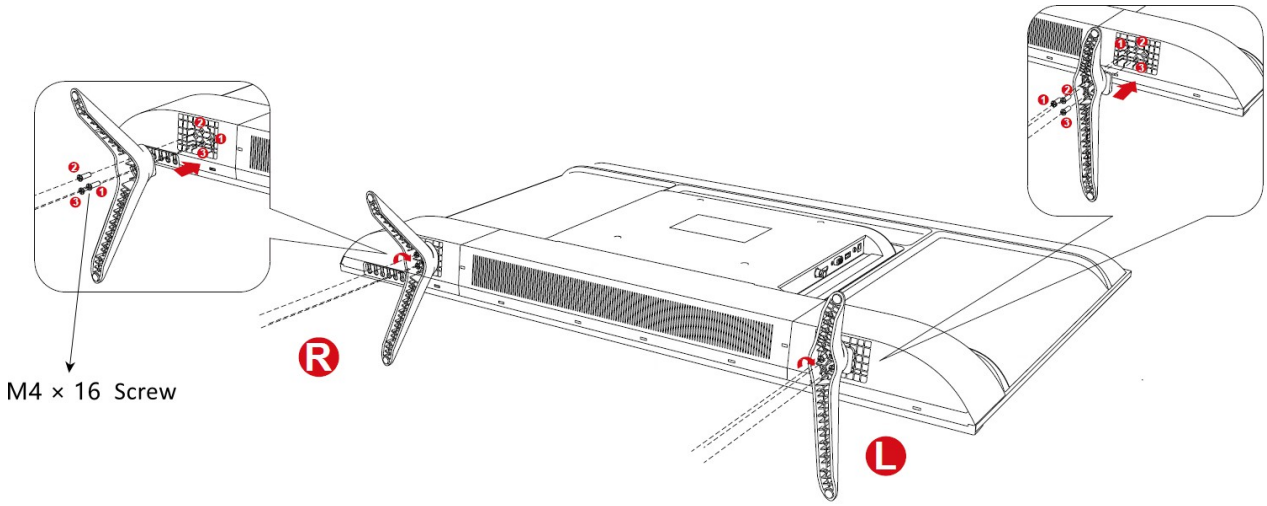


Figure 3-3ベースをデバイスに固定する

Step 4取り付け後、デバイスをプラットフォーム上に安定して直立させてください。

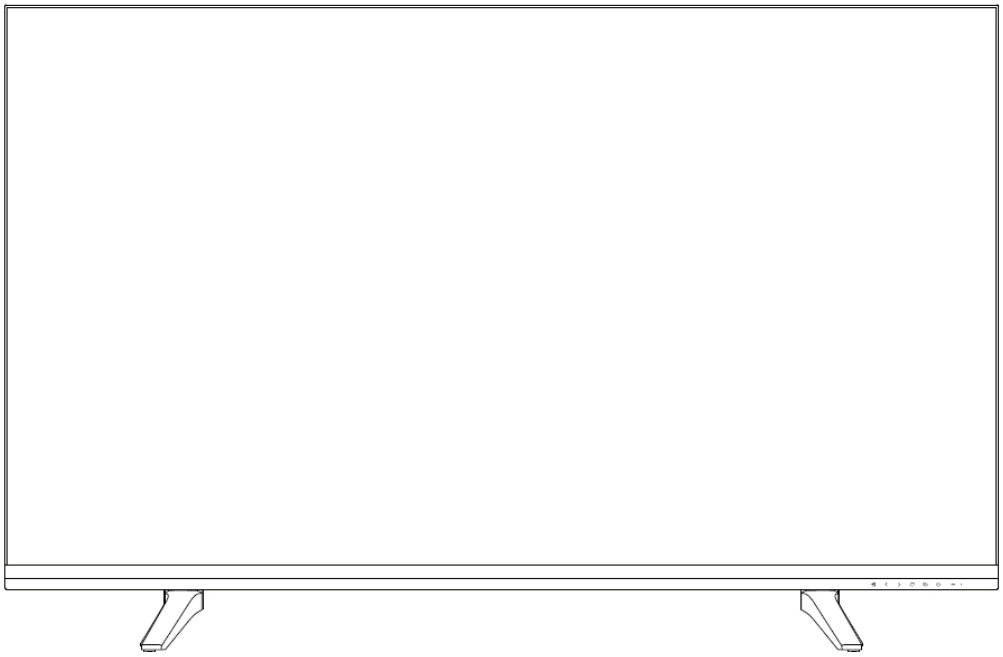


Figure 3-4ベースの取り付け完了

3.2 電源コードと信号ケーブルの接続

Step 1電源コードを使用して、本機を接地された電源コンセントに接続してください。

Step 2入力信号源となる機器を、HDMI 信号ケーブルまたは VGA 信号ケーブルで接続してください。Step 3本体の電源を入れてください。

Caution

- 電源：AC 100 V〜240 V、50/60 Hz。詳細な電圧および最大電流の仕様については、本体のパッケージにある製品ラベルをご参照ください。
- 本機を長期間使用しない場合は、電源を切り、プラグを抜いてください。
- 本機は DC 電源には接続できません。
- リモコンの「 」ボタン、または本体の前面パネルにある「 」ボタンを短く押して、スタンバイモードに入ります。「 」ボタンを短く押すか、 もう一度短く押すと、スタンバイモードを解除して画面を点灯させることができます。
- 待機時の消費電力：0.5 W 以下。
- 本機の電源が入っており、信号が入力されていない場合、画面に「No Signal」と表示され、10 分後にスリープモードになります。つまり、本機はネットワーク待機モードに入り、

  最小限の電源消費で動作します。信号源を受信した後、または「 」を短押しするか を短く押すと、デバイスはネットワーク待機モードを解除し、画面が点灯します。
- ネットワーク待機時の消費電力：2.0 W以下。

第4章 基本的な操作

4.1 信号ソースの選択

Step 1 信号ケーブルを接続するか、USB フラッシュドライブを挿入した後、デバイスの電源を入れてください。Step 2

を短く押して、信号ソースページに入ります。

Step 3 を短く押して入力ソースを切り替え、 を短く押して確定します。Step 4 を短く

押して、信号ソースページを終了します。

4.2 USBメニューの操作

Step 1 USBフラッシュドライブをUSBインターフェースに挿入し、リモコンの**MENU**ボタンを押します。

Step 2 信号ソース画面で「USB」を選択し、USBメニューに入ります。

Step 3 方向ボタンを押して、再生したい写真、音楽、動画、またはファイルを選択します。**OKボタンを**押します。

Step 4 方向ボタンを押して、再生したいファイルの種類を選択します。Step 5 **「再生」**ボタンを

押して、コンテンツを再生します。

4.3 OSD メニューの操作

Step 1 短く押して を短く押して、OSD ページに

入ります。Step 2 メインメニューページを表示します。

1) を短く押してメインメニューページを表示します。xml-ph-0000@deepl.internal または を短く押して、メインメニューページを表示します。
2) を短く押して、別のメインメニューページに切り替えます。Step 3

サブメニューページを表示します。

1) を短く押して、サブメニューページに入ります。
2) を短く押して、別のサブメニューページに切り替えます。Step 4

パラメータを調整します。

1) 短く押す または を短く押して、パラメータの値を調整します。
2) を短く押して、別のパラメータに切り替えます。 パラメータを調整します。またはを短く押して、パラメータの値を調整します。

Step 5 調整後、 を短く押して、メインメニューページに戻ります。Step 6 もう

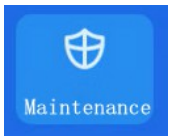
一度短く xml-ph-0000@deepl.internalをもう一度短く押して、OSDページを終了します。

4.4 OSD メニュー

Table 4-1 メニューの説明

メインメニュー	サブメニュー	パラメータ	説明
	HDMI		HDMIデジタル信号入力。
	デコーダーデコーダー信号ソース入力。		デコーダー信号ソース入力。
	USB		USBフラッシュドライブに保存されたコンテンツを再生します。
	画像モード	画像モード	●標準：通常の環境に適しています。デフォルトの画像モードです。 ●動画：動画の再生に適しています。 ●レポート：ファイルや PPT などの材質の再生に適しています。 ●セキュリティ：監視ビデオの再生に適しています。 ●ユーザー： 輝度、コントラスト、色の鮮明度、色相をカスタマイズして、表示効果を調整します。
		色温度	必要に応じて色温度を設定します。色温度が高くなると、色の分布はより寒色系になります。逆に、色温度が低くなると、色の分布はより暖色系になります。
		明るさ	値が高いほど、画像は明るくなります。
		コントラスト	値が高いほど、画像は鮮明になります。
		カラー:	値が高いほど、画像の色彩が豊かになります。
		シャープネス	値を最大にすると、画像がより鮮明になります。
		色相	これは 決定します の 明暗の間の 度合いを決定します。

メインメニュー	サブメニュー	パラメータ	説明
	画像設定	色空間	「自動」モードでは、システムは入力信号源の色空間に基づいて、対応する色空間に自動的に適応します。信号源の出力の色空間の識別が一致しない場合、適切な適応を行うために、0〜255 または 16〜235 間の手動切り替えもサポートされています。
		スケーリングモード	画像スケール（画像の幅と高さの比率）を調整します。
		EDID 切り替え	● EDID 1.4：1080p 画像に適しています。 ● EDID 2.0：4K 画像に適しています。
		HDR	有効にすると、より広い色域と輝度範囲を表示でき、極端な値の間にある細部もより鮮明に表現されます。
		アイケアモード	有効にすると、ブルーライトの放射を効果的に低減し、目の疲れを和らげ、視力を保護することができます。
		自動バックライト	光センサー付きコントロールパネルと組み合わせて有効にすると、画面のバックライトが自動的に調整されます。
	ソース設定	自動ソース	信号源を自動的に取得します。
	デバイスロック	キーパッド	有効または無効をキーパッドを必要に応じて必要に応じて有効にまたは無効にします。
	過熱アラーム	過熱アラーム	温度が指定値を超えると、アラームが作動します。
		アラーム温度（℃）	アラーム温度を設定します。
	オーディオ設定	音量	デバイスの音量を調整します。
		バランス	左右のスピーカー間のバランスを調整します。
		ミュート	デバイスの音を消音または消音解除します。

メインメニュー	サブメニュー	パラメータ	説明
	メンテナンス	ソフトウェアバージョン	デバイスのソフトウェアバージョン。
		デコーダバージョン	デバイスのデコーダバージョン。
		現在の温度(°C)	デバイスの現在の温度。
		シリアル番号	デバイスのシリアル番号。
	OSD 設定	OSD言語	OSDの言語を設定します。
		OSD表示時間	操作がない場合に OSD メニューが表示されるまでの時間を設定します。
		自動スリープ	自動スリープ時間を設定します。
		スクリーンセーバー	信号がないときの画面の背景色。
	デバイス情報	アップグレード（USB）	USB フラッシュドライブを挿入して、ソフトウェアのバージョンをアップグレードします。
		ユーザー復元	デフォルト設定に復元します。

第5章 Web設定

5.1 デバイスのアクティベーションとログイン

デバイスを初めて使用する前に、アクティベーションを行う必要があります。デバイスのアクティベーションを行う際は、パスワードの設定に関して以下の要件に従ってください。

- システムのセキュリティを強化するため、パスワードを定期的に変更することを強く推奨します。プライバシーや企業データを保護し、ネットワークセキュリティ上の問題を回避するために、
  セキュリティ要件を満たす強力なパスワードを設定することを推奨します。
- パスワードは 8 ～ 16 文字で、数字、小文字、大文字、特殊文字のうち、少なくとも 2 種類を含む必要があります。
- パスワードには、ユーザー名、「123」、「admin」（大文字小文字を区別しません）、4桁以上の連続した昇順または降順の数字、および4文字以上の連続した同一文字を含めることはできません。

HiTools Delivery を使用してデバイスをアクティベートする

Step 1 デバイスとコンピュータを同じLANに接続し、デバイスとコンピュータが同じIPサブネット上にあることを確認してください。

Step 2 コンピュータに HiTools Delivery クライアントをインストールして起動します。Step 3 [

デバイス管理] → [**現在のサブネット]** に Go し、**[更新]** をクリックします。

Step 4 非アクティブなデバイスを選択し、アクティベーションパスワードを設定して確認し、**「アクティベーション」**をクリックします。

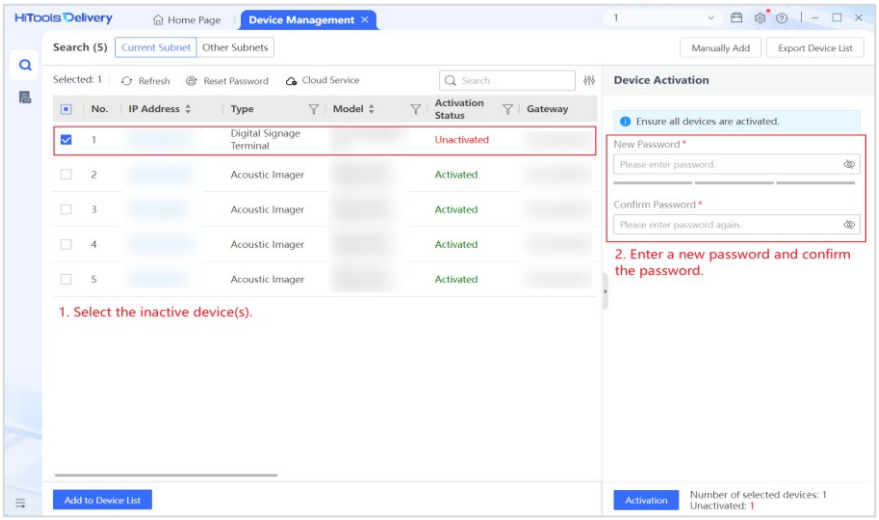


Figure 5-1 デバイスをアクティベートする

Step 5 デバイスの IP アドレスを一括編集する:

1) アクティブ化済みの複数のデバイスにチェックを入れます。

2) 開始IPアドレス、ポートNo.、IPv4サブネットマスク、IPv4ゲートウェイなどを設定すると、選択したデバイスに昇順のIPアドレスが自動的に割り当てられます。

3) 管理者パスワードを入力し、「**OK**」をクリックします。

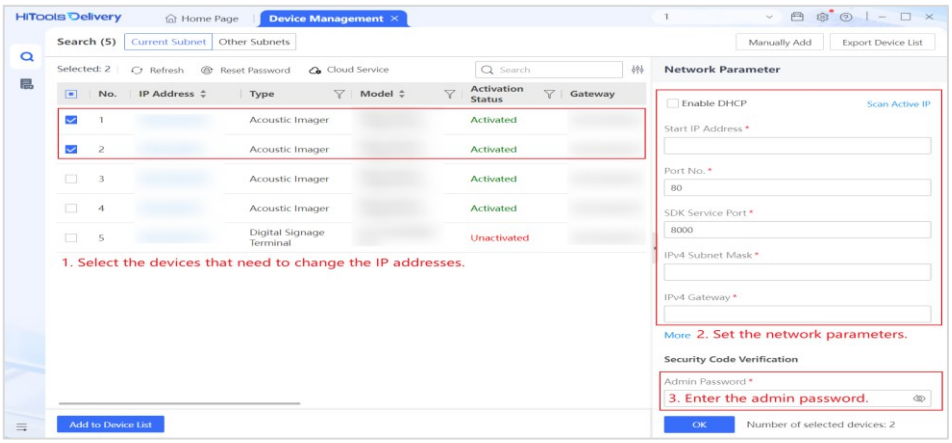


Figure 5-2 デバイスのIPアドレスを一括編集

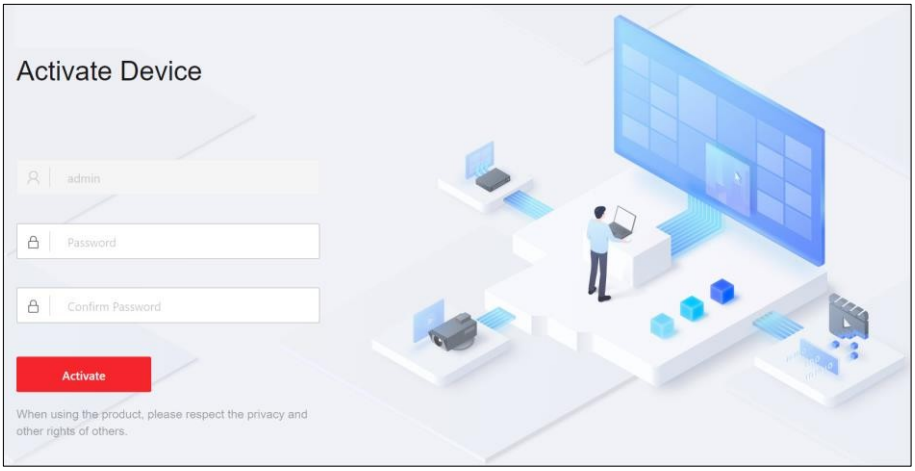
ウェブブラウザー経由でデバイスを有効化する

Step 1 ネットワークケーブルを使用して、コンピュータをデバイスに接続します。

Step 2 コンピュータの IP アドレスを 192.0.0.2 から 192.0.0.253 の範囲（192.0.0.64 を除く）の任意の IP アドレスに設定し、コンピュータのゲートウェイアドレスを 192.0.0.1 に設定します。

デフォルトでは、デバイスの IP アドレスは 192.0.0.64、ゲートウェイアドレスは 192.0.0.1 です。

Step 3 コンピュータブラウザに「192.0.0.64」と入力して、デバイスのアクティベーションページにアクセスします。



Step 4 アクティベーションパスワードを設定し、「**Activate**」をクリックします。

Figure 5-3 ブラウザからデバイスをアクティベートする

Step 5 ログインページでユーザー名と設定したアクティベーションパスワードを入力し、「**Log In**」をクリックします。

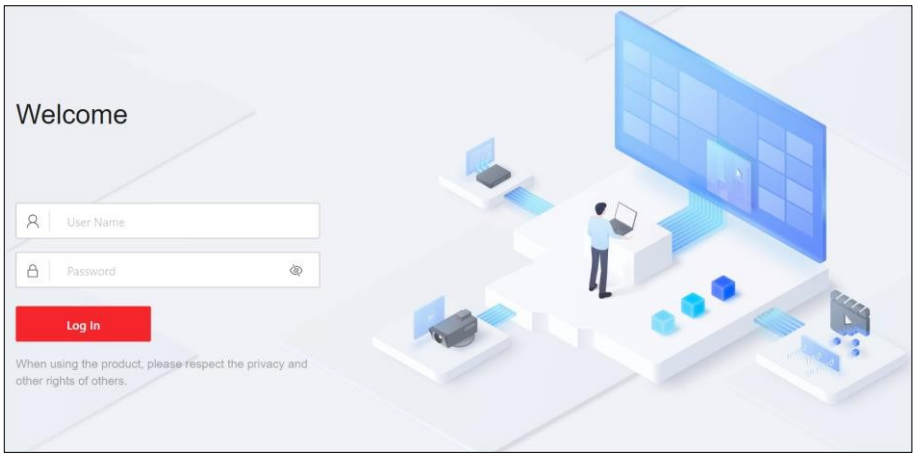


Figure 5-4 ログインページ

Step 6 (オプション) パスワードを編集するには、Web ページの右上隅にあるユーザー名をクリックし、[**パスワードの変更**] をクリックします。

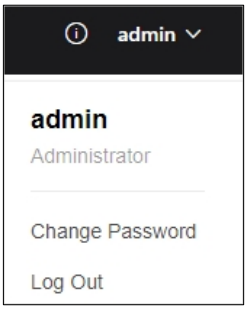


Figure 5-5 パスワードの変更

5.2 ネットワークアドレスの設定

TCP/IP の設定

開始する前に

デバイスがオンサイトネットワークに接続された後、デバイスとコンピュータが同じセグメントにあることを確認してください。

手順

Step 1 [**Configuration**] → [**ネットワーク**] → [**ネットワーク Configuration**] → [**TCP/IP**] に移動します。

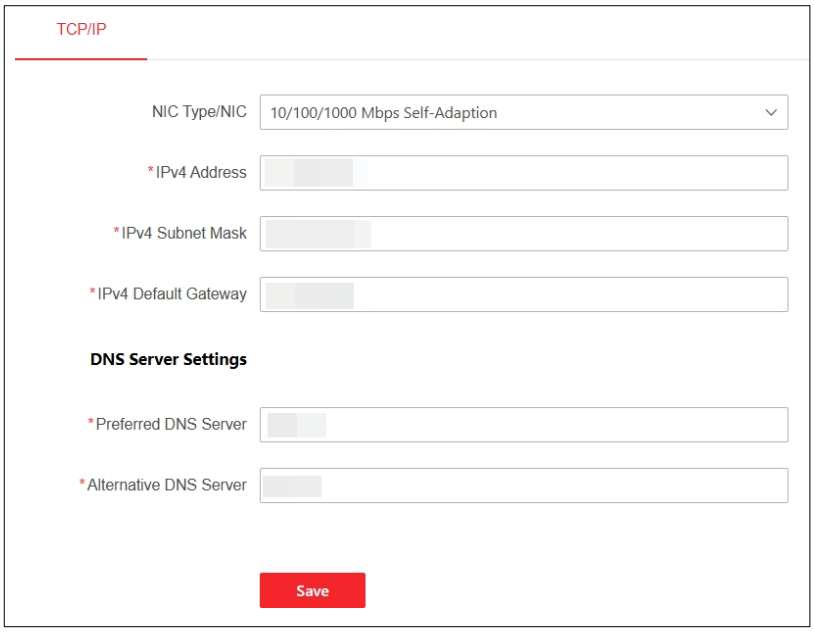


Figure 5-6 TCP/IP パラメータの設定

Step 2 IPv4 アドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを設定します。

Step 3 優先 DNS サーバーおよび代替 DNS サーバーを設定します。

Step 4 [**保存**] をクリックします。

Step 5 デバイスとコンピュータを接続しているネットワークケーブルを取り外し、そのネットワークケーブルを使用して、デバイスをオンサイトネットワークに接続します。

Step 6 コンピュータのウェブブラウザーに、設定したデバイスの IP アドレスを入力して、デバイスのウェブページにログインします。

5.3 信号源の設定

5.3.1 Add a Network Signal Source

IPアドレスを使用してネットワーク信号ソースを追加する

Step 1 「**ビデオウォール操作**」→「**ソース**」に移動し、 ＋ をクリックし、「**IPアドレス**」を選択します。

Step 2 信号ソース情報とストリームメディア情報を入力します。

- （オプション）[**暗号化ストリーム**] を有効にし、秘密鍵を入力します。
- 追加済みのグループを選択するか、[**グループの追加**] をクリックして新しいグループを作成します。
- [**詳細**] をクリックして、伝送プロトコル、ストリームタイプ、暗号化ストリーム、デバイスメーカー、およびストリーミングメディア情報を選択します。

  [**ストリーミングサーバー経由でストリームを取得**] を有効にすると、ストリーミングサーバーを介してライブビューデータの転送を行うことができ、ネットワークへの負荷を軽減できます。

Step 3 [**保存**] をクリックします。

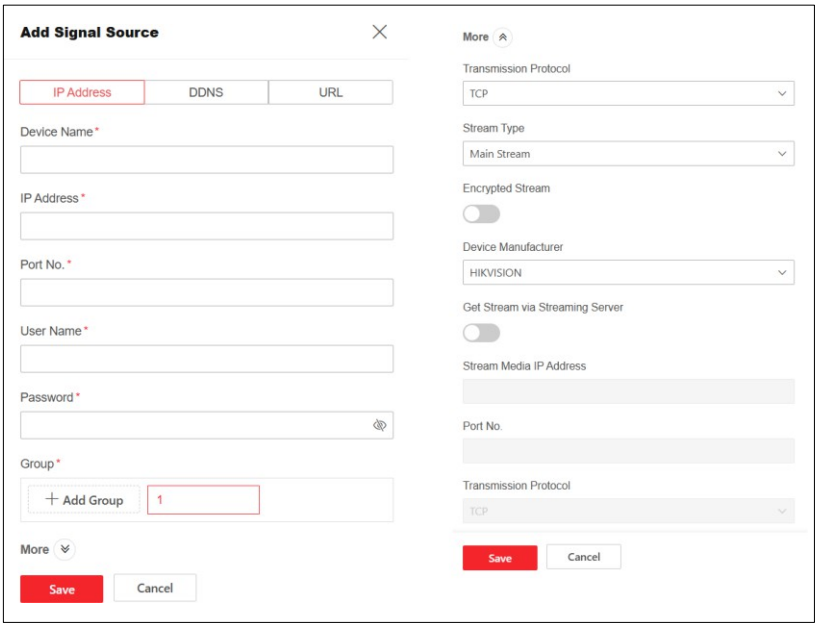


Figure 5-7 IP アドレスを介してネットワーク信号ソースを追加する

DDNS 経由でネットワーク信号ソースを追加する

開始する前に

DDNS 経由でネットワーク信号ソースを追加する前に、[**TCP/IP**] ページで DNS サーバーを設定しておく必要があります。

Step 1 [**画面操作**] → [**信号ソース**] に移動し、 をクリックし、**[DDNS]** を選択します。Step 2 信号ソース情報とストリームメディア情報を入力します。

- (オプション) [**暗号化ストリーム**] を有効にし、秘密鍵を入力します。
- 追加済みのグループを選択するか、[**グループの追加**] をクリックして新しいグループを作成します。
- **[詳細]** をクリックして、伝送プロトコル、ストリームタイプ、デバイスメーカー、およびストリーミングメディア情報を選択します。

  「**ストリーミングサーバー経由でストリームを取得**」を有効にすると、ストリーミングサーバーを介してライブビューデータの転送を行うことができ、ネットワークへの負荷を軽減できます。

Step 3 [**保存**] をクリックします。

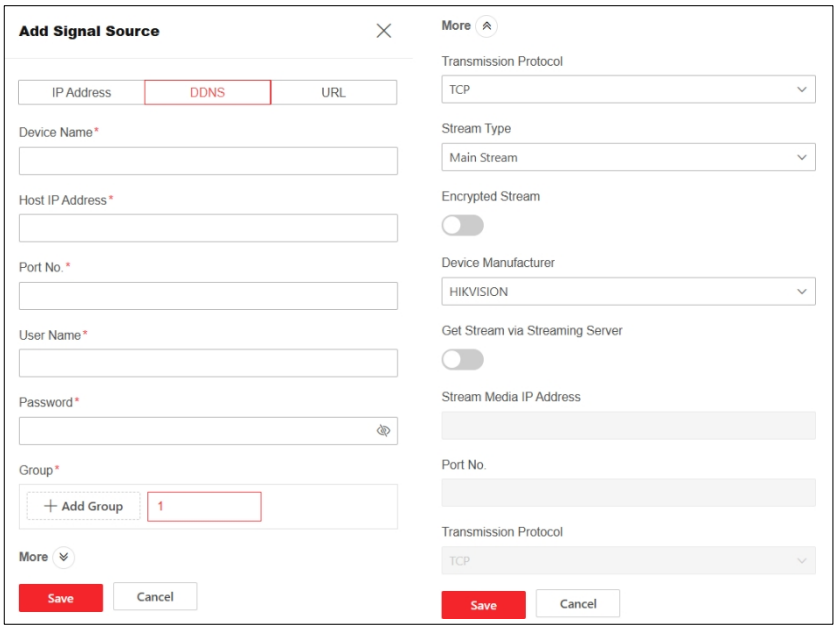
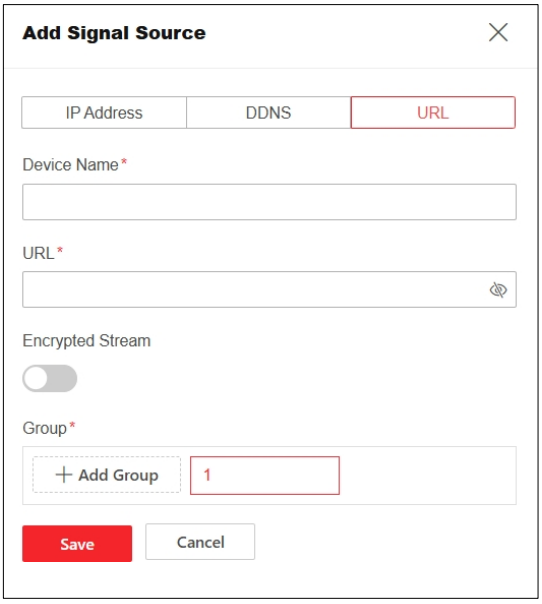


Figure 5-8 DDNS 経由でネットワーク信号ソースを追加する

URL を使用してネットワーク信号ソースを追加する

Step 1 [**画面操作**] → [**信号源**] に移動し、 をクリックし、**[URL]** を選択します。Step 2 デバイス名と URL を入力します。

Step 3（オプション）[**暗号化ストリーム**] を有効にし、秘密鍵を入力します。Step 4 追加済みのグループを選択するか、[**グループの追加**] をクリックして新しいグループを作成します。



Step 5 [**保存**] をクリックします。

Figure 5-9 URL 経由でネットワーク信号ソースを追加する

5.3.2 Edit the Network Signal Source

「画面操作」に移動し、ネットワーク信号ソースにカーソルを合わせ、[ ] をクリックしてパラメータを編集します。

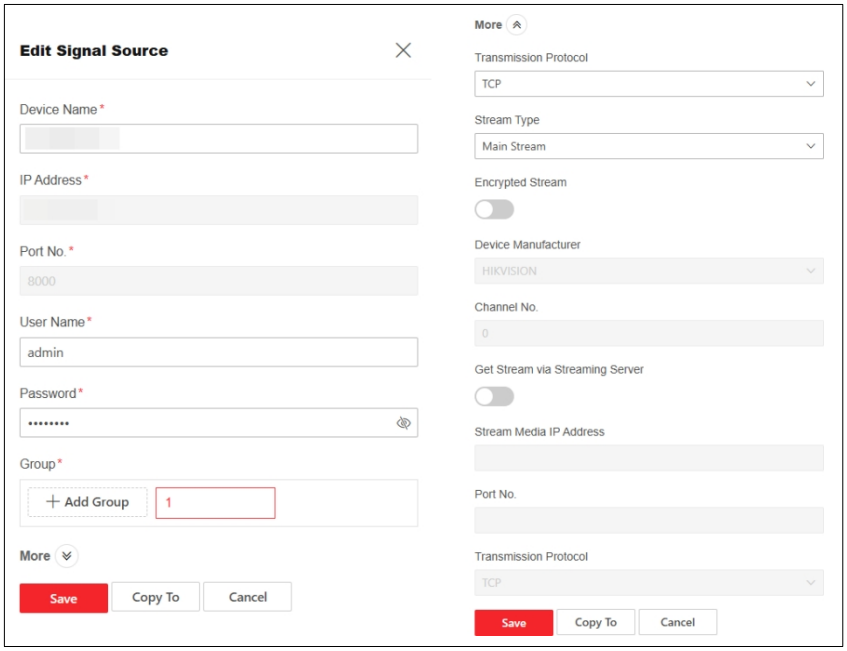


Figure 5-10 ネットワーク信号ソースの編集

5.3.3 Batch Delete Network Signal Sources

無効なネットワーク信号源を一括削除するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押しながら複数のネットワーク信号源を選択し、

をクリックします。

5.3.4 Bind Network Signal Sources with the Video Wall

実際のニーズに応じて、以下のいずれかの方法で信号ソースをビデオウォールにバインドします：

- 信号ソースを選択し、ビデオウォールに向かって右方向にドラッグします。

  信号ソースをビデオウォールに紐付けると、デフォルトではその信号ソースのウィンドウが 1 つの画面を完全に覆います。

- 信号ソースをビデオウォールに一括で割り当てるには、以下のいずれかの方法を選択してください：

  — デフォルトの信号ソースグループ、または新しく作成したネットワーク信号ソースグループを、右方向にビデオウォールへドラッグします。

  — Ctrl キーまたは Shift キーを押しながら同じグループ内の複数の信号ソースを選択し、それらを右方向にドラッグしてビデオウォールに配置します。

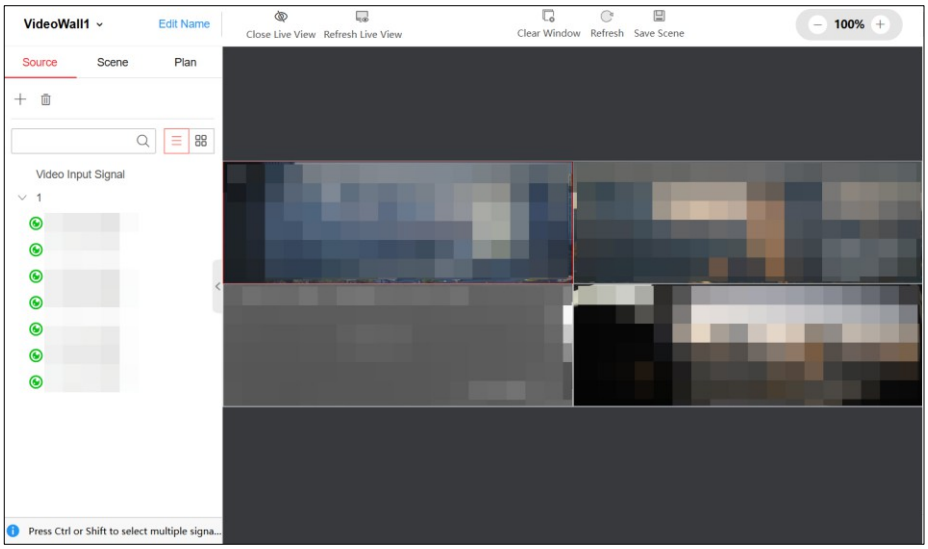


Figure 5-11 信号源をビデオウォールに一括バインドする

5.4 ビデオウォールの操作

「画面操作」ページに移動し、**「名前の編集」**をクリックしてビデオウォールの名前を変更できます。

5.4.1 Edit Signal Source Window Parameters

信号ソースウィンドウの編集

信号ソースウィンドウを選択し、必要に応じて以下の操作を行います。

- ウィンドウの位置を調整する：ウィンドウを直接移動するか、具体的なXおよびY値を入力します。
- ウィンドウの分割：ウィンドウ分割アイコンをクリックします。
- ウィンドウのサイズを調整する：

  — ウィンドウの端をドラッグしてサイズを調整します。

  — WおよびHの値を入力します。

  — ウィンドウの右上隅にある「 」をクリックすると、使用中の出力ポートを完全に覆うように表示され、「 」をクリックすると元のサイズに戻ります。

- ウィンドウを最下部に配置する： をクリックします。

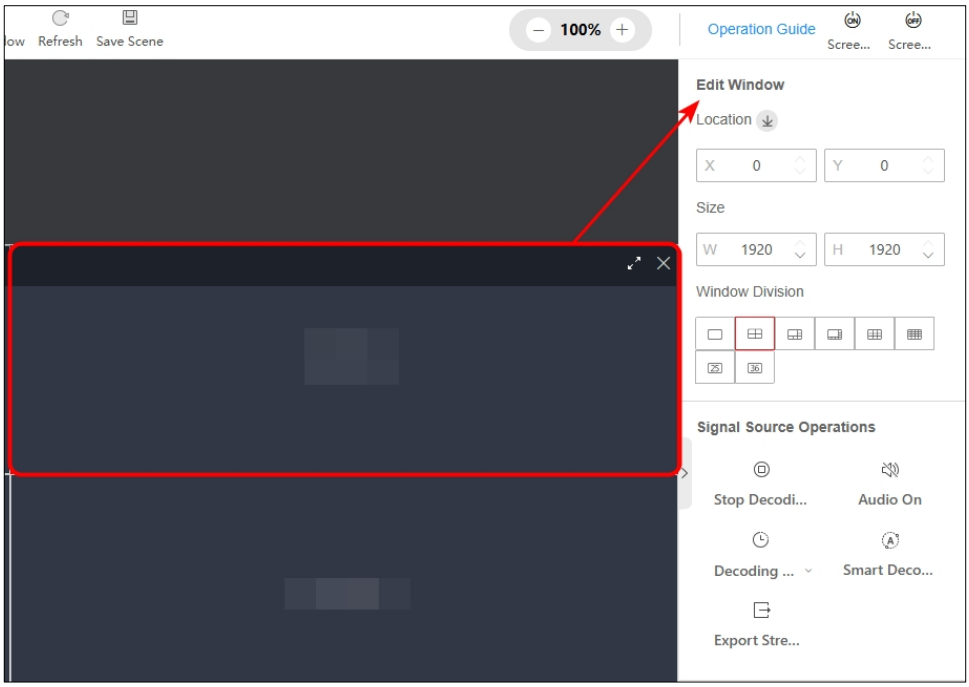


Figure 5-12 信号ソースウィンドウの編集

● 信号ソースウィンドウのオーディオを有効にします。

信号ソースウィンドウを選択し、「**Audio On**」をクリックして、その信号ソースのオーディオを有効にします。

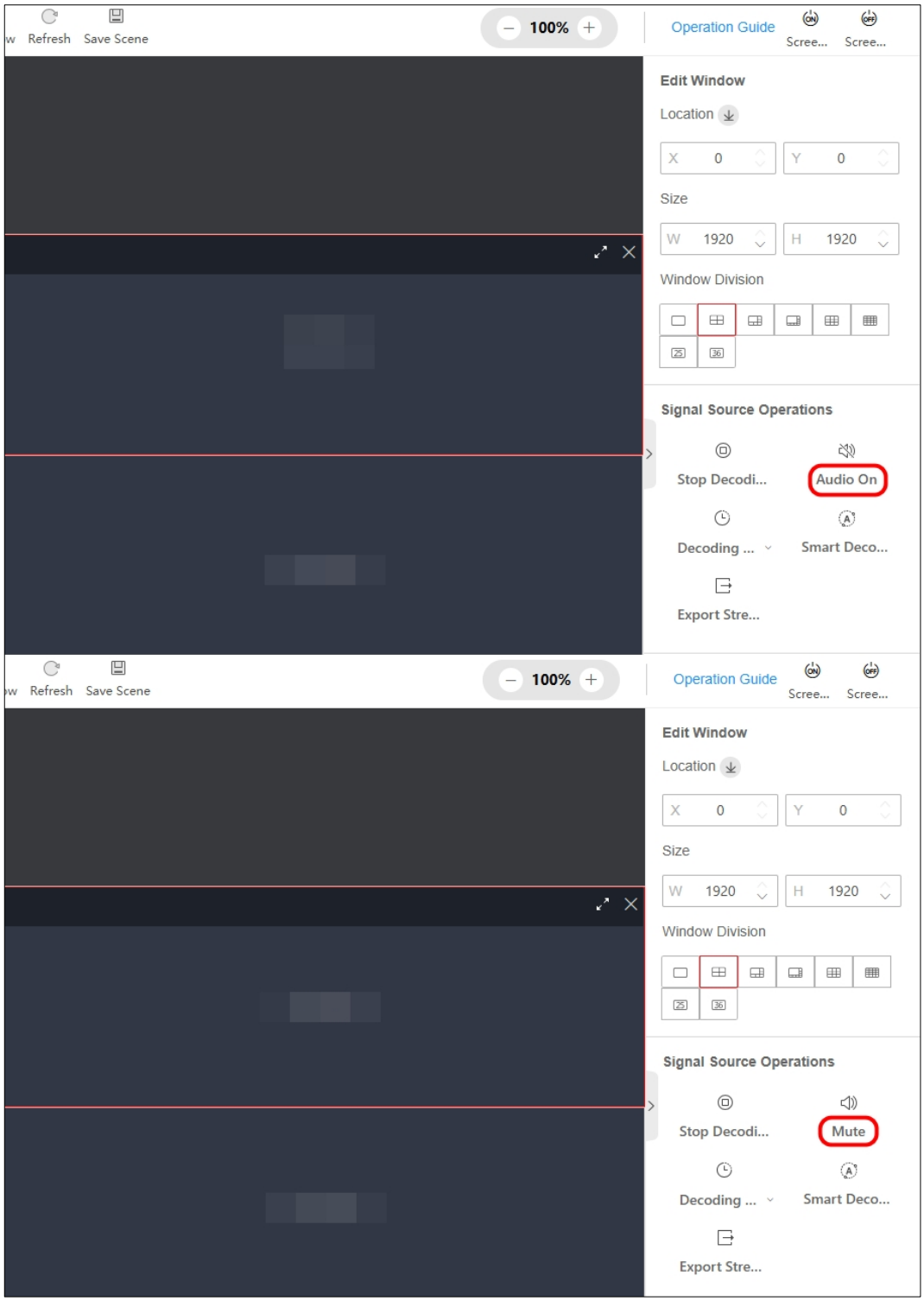


Figure 5-13 信号ソースのオーディオを設定する

- ネットワーク信号ソースを選択して、デコード状態、オーディオ状態、デコード遅延、スマートデコード、およびストリームのエクスポートを設定します。

  ー デバイスでは、WebSocketがデフォルトで有効になっています。コードストリームをエクスポートするには、WebSocketが有効になっていることを確認し、以下の手順に従ってください。

1) **[メンテナンスとセキュリティ]** → [**セキュリティ管理**] に移動し、WebSocketが有効になっていることを確認します。有効になっていない場合は、WebSocketを有効にしてください。

2) ネットワーク信号ソースウィンドウを選択し、「ストリームのエクスポート」をクリックしてストリームをエクスポートします。

— スマートデコードを有効にすると、デバイスはネットワークカメラからのスマートアラームイベントをデコードできるようになります。

● 信号ソースグループの自動切り替えを設定します。「信号ソースウィンドウ」の右上隅にある「」をクリックし、信号ソースグループを選択して、画像間隔を設定した後、「**Start Auto-Switch**」をクリックします。

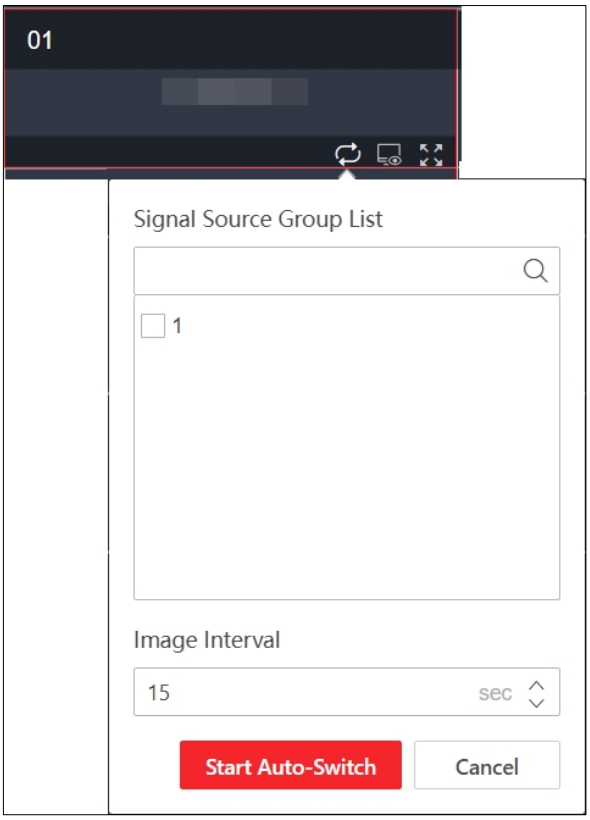


Figure 5-14 信号ソースグループの自動切り替えを設定する

● ウィンドウのステータスを表示する：「**Show All**」をクリックすると、デコードステータスのリストを表示できます。

複数の信号源ウィンドウの編集

[**画面操作**] ページで、必要に応じて以下の操作を行います：

● 信号ソースのプレビュー：

— 信号ソースウィンドウの右上隅にある「」をクリックすると、その信号ソースをプレビューできます。「」をクリックすると、ライブビューを終了します。

— 「**Video Wall**」ページの上部にある「**Enable Live View**」をクリックすると、ビデオウォール上のすべての信号ソースをプレビューできます。「**Close Live View**」をクリックすると、ビデオウォール上のすべての信号ソースのプレビューを停止します。

— 「**Video Wall**」ページの上部にある **[Refresh Live View]** をクリックすると、すべての信号ソースのライブビューが更新されます。

— **「ビデオウォール」**ページの上部にある **[Refresh]** をクリックすると、すべての信号ソースウィンドウが更新され、すべての信号ソースのライブビューがオフになります。

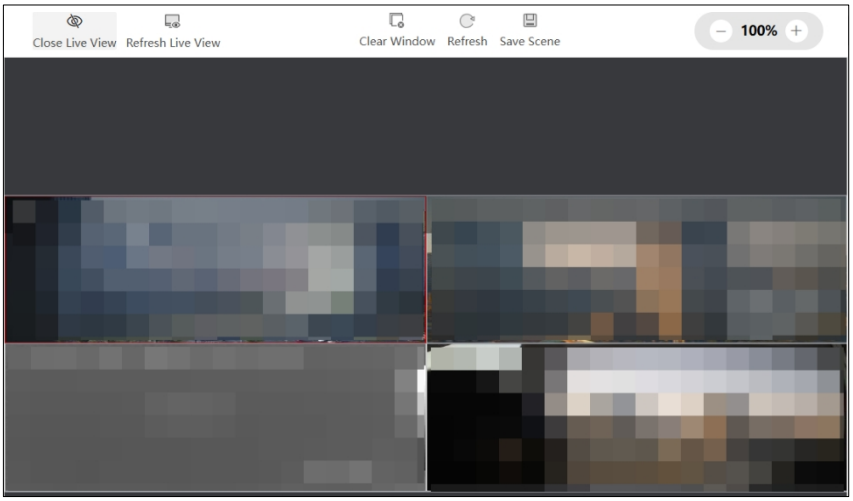


Figure 5-15 信号ソースのプレビュー

● **「ウィンドウをクリア」**をクリックすると、境界が設定されたすべての信号ソースウィンドウがクリアされます。

5.4.2 Manage Scenes

最大 4 つのシーンがサポートされています。**「画面操作」**に移動して、シーンを管理してください。

● **[Save Scene]** をクリックして、設定を新しいシーンとして保存するか、既存のシーンを上書きします。

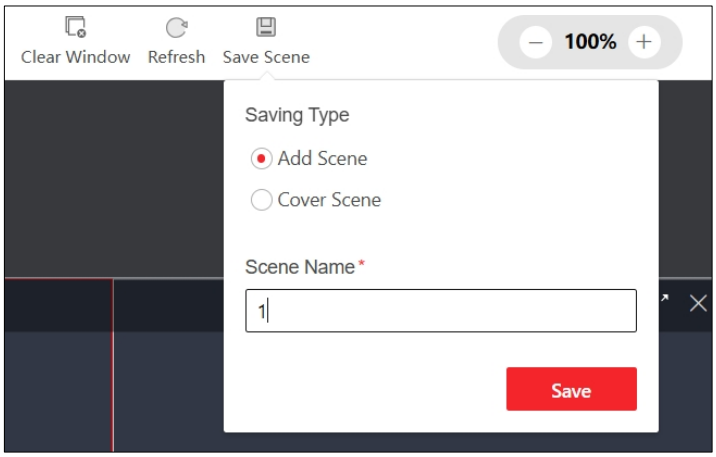


Figure 5-16 シーンの保存

● **「Scene」**をクリックし、シーン名にカーソルを合わせます。「 」をクリックしてシーンを呼び出します。

● **「Scene」**をクリックし、シーン名にカーソルを合わせます。「 」をクリックして、シーンを呼び出します。**「Scene」**をクリックし

、シーン名にカーソルを合わせます。「 」をクリックして、シーン名を編集します。

- 「**Scene**」をクリックし、シーン名にカーソルを合わせます。「」をクリックして、シーンを呼び出します。「**Scene**」をクリックし、シーン名にカーソルを合わせます。「」をクリックして、シーン名を編集します。

Figure 5-17 シーンの管理

5.4.3 Manage Plans

プランを設定することで、スケジュールに従って 1 つまたは複数のシーンを自動的に呼び出すことができます。

Step 1 **[Screen Operation]** に Go して、ビデオウォールページを開きます。**[Plan]** をクリックします。

Step 2 クリックして をクリックしてプランを追加します。

- プラン名を入力します。
- **[タスクの追加]** をクリックしてシーンを選択し、間隔を設定します。
- （オプション）[**プランを自動的に実行**] を有効にして、必要に応じてスケジュールを設定します。
- **[保存]** をクリックします。

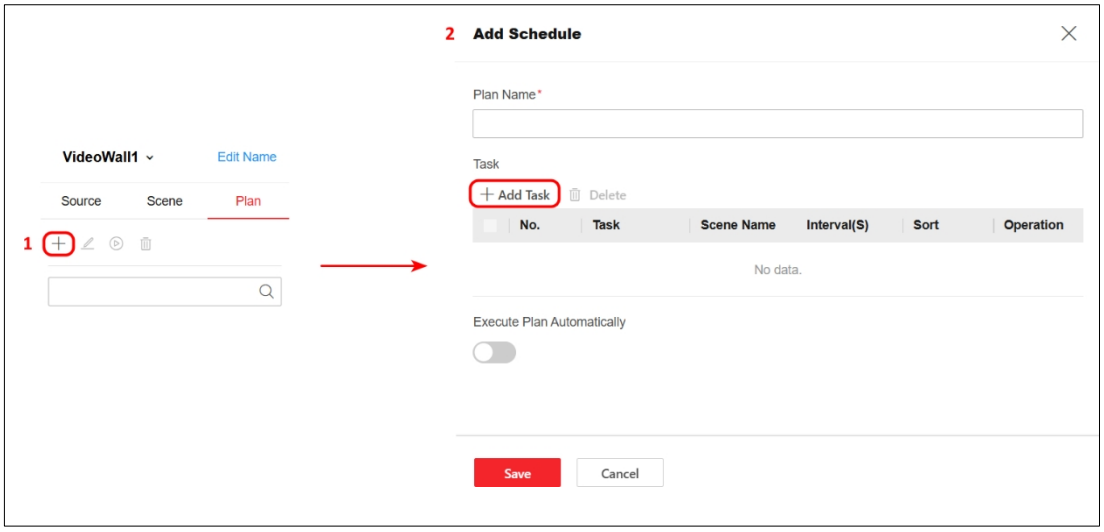


Figure 5-18 プランの追加

Step 3 オプション:

- 編集するプランを選択します。「」をクリックして、プランのパラメータを編集します。

- 呼び出すプランを選択します。「▷」をクリックしてプランを呼び出します。

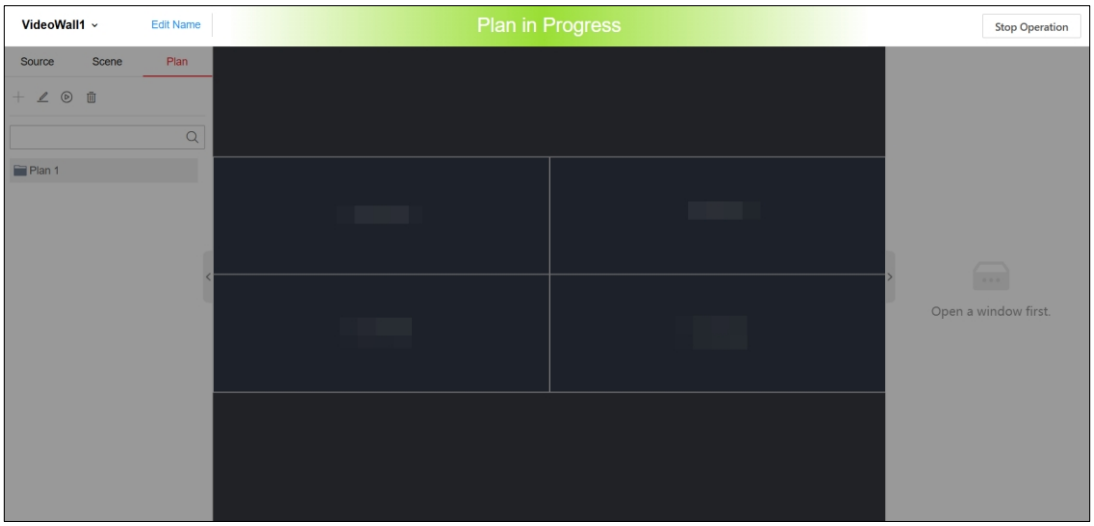


Figure 5-19 プランの実行

- 削除するプランを選択します。「🗑」をクリックしてプランを削除します。

5.4.4 Maintain the Screen

Step 1 「**Screen Maintenance**」に移動し、入力信号源のタイプを選択します。Step 2 必要に応じて

、以下の操作を実行してください。

- 画像モードを選択してください。
- バックライトを調整します。
- 「**Screen On**」または「**Screen Off**」をクリックして、画面のオン/オフを切り替えます。
- **[表示]** をクリックして、画面にソフトウェアのバージョンと稼働時間を表示します。

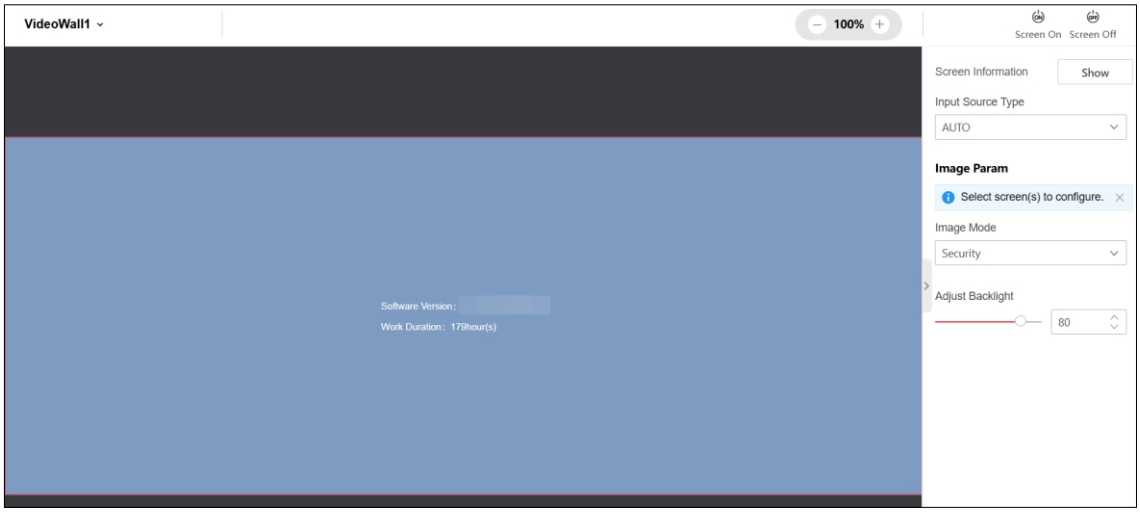


Figure 5-20 画面のメンテナンス

5.5 画面上の画像効果の設定

5.5.1 Configure Timed Screen On/Off Schedule

Step 1 **[設定]** → **[画面のオン/オフのタイマー設定]** に移動し、画面のオンおよびオフのスケジュールを設定します。

Step 2 そのページで、画面のオン時間とオフ時間を設定します。**「OK」**→**「保存」**をクリックします。

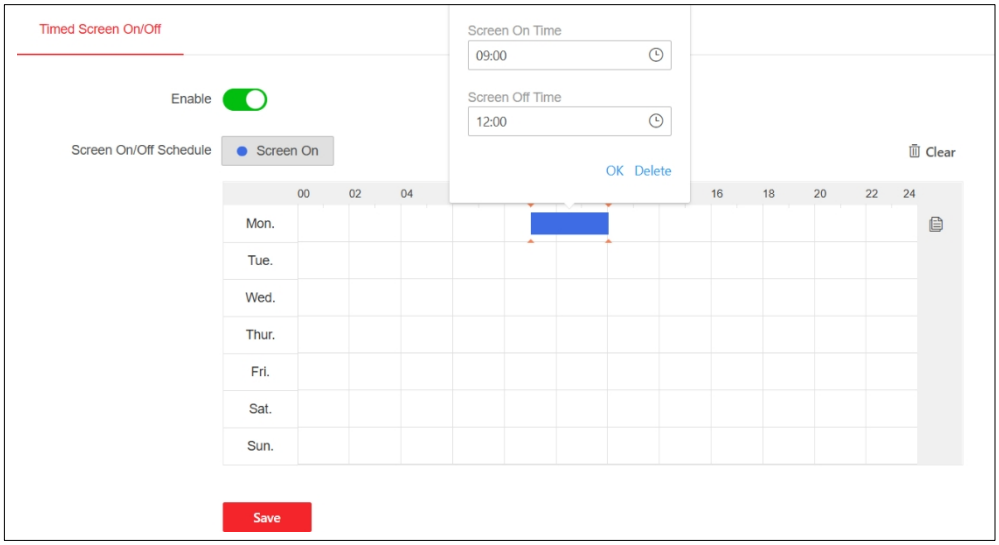


Figure 5-21 画面のオン/オフスケジュールの設定

Step 3 オプション:

- 「 」をクリックし、スケジュールを設定したい日付にチェックを入れます。**「OK」**→**「保存」**をクリックして、選択した日付にスケジュールをコピーします。

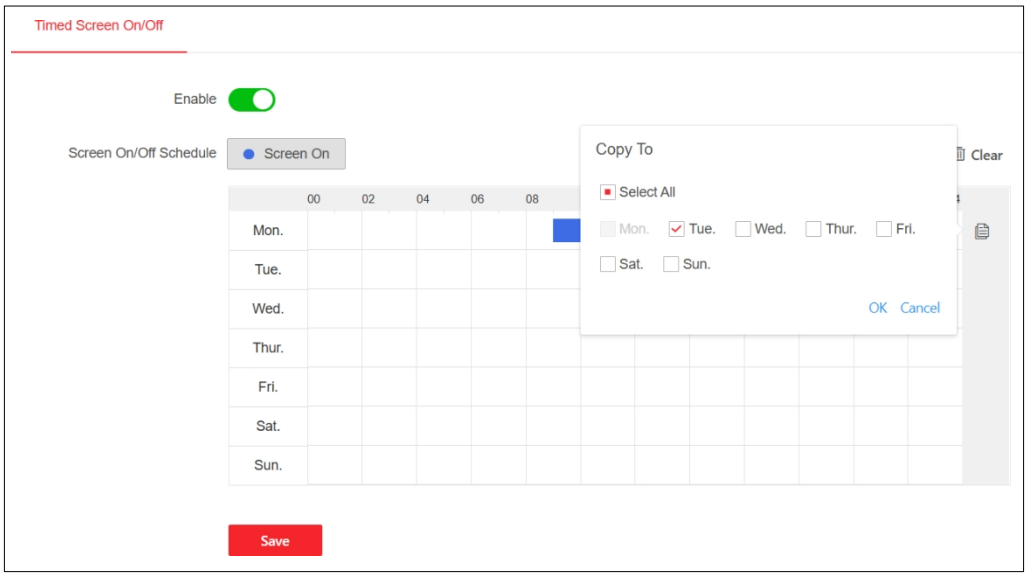


Figure 5-22 画面のオン/オフスケジュールのコピー

- **[クリア]**をクリックすると、すべての画面オン／オフのスケジュールが削除されます。

5.5.2 Configure Other Parameters

[設定] → [**その他の設定]** にGoし、以下のパラメータを設定します：

- **「サブストリームの自動切り替え」**を有効にし、ウィンドウ分割のしきい値を設定します。

  ウィンドウ分割がウィンドウ分割のしきい値に達すると、デバイスは自動的にサブストリームを使用して画像を取得します。帯域幅の狭いネットワークでは、サブストリームを使用することで、帯域幅の消費を抑えつつ比較的滑らかな画像を取得できます。

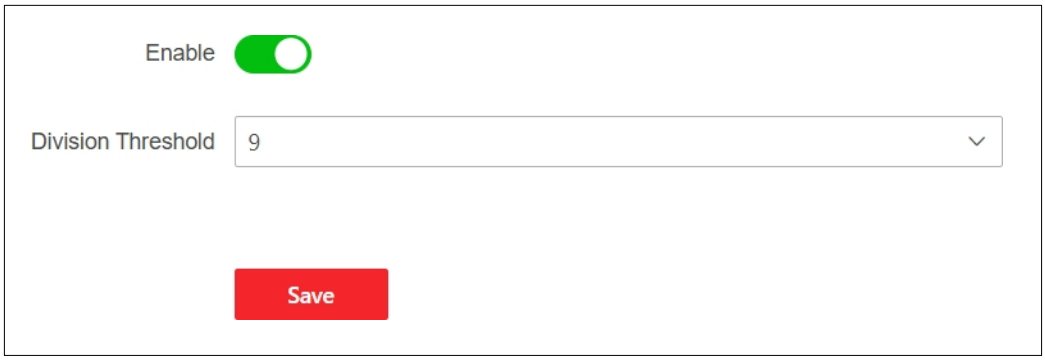


Figure 5-23 サブストリームの自動切り替えを設定する

- **[表示設定]** をクリックし、デコード終了時、ストリーミング失敗時、およびデコードリソースが不足した際に表示される内容を設定します。

  — **「ネットワーク信号なしの通知」**を選択すると、ネットワーク信号がないことを示すメッセージが画面に表示されます。

  — 「**デバイスの例外**」を有効にすると、デバイスの例外が発生した際に、画面に OSD が表示されます。

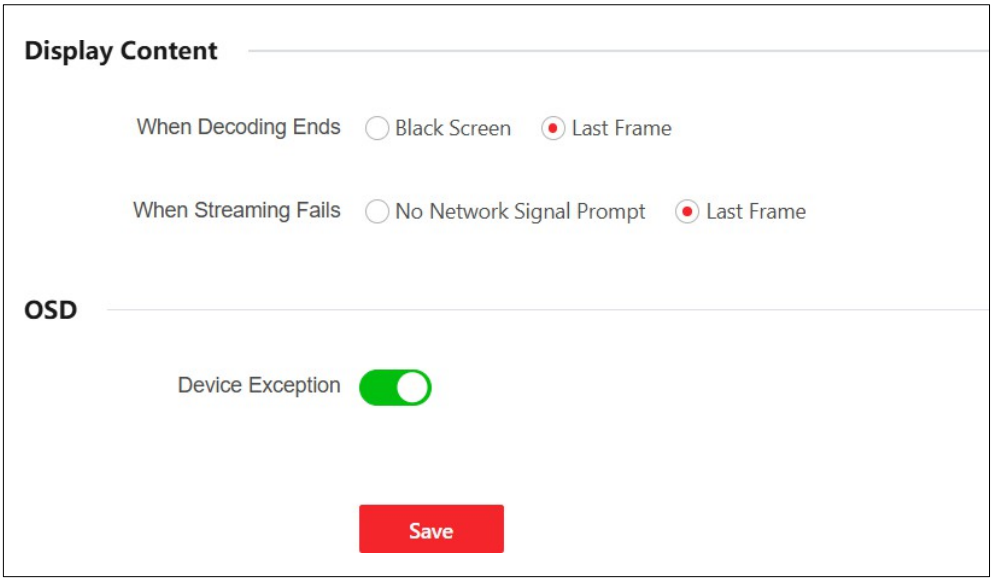


Figure 5-24 表示コンテンツの設定

- **[シーン変更]** をクリックして、シーン変更のタイムアウト間隔を設定します。

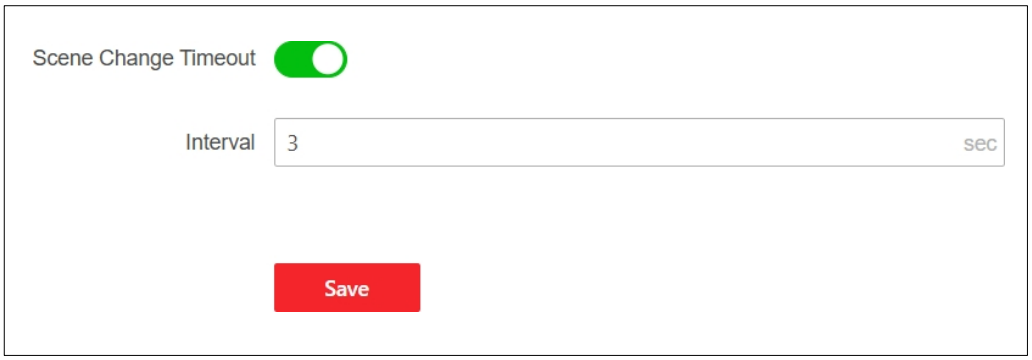


Figure 5-25 シーン変更のタイムアウト間隔を設定

● **[デコード遅延]** をクリックし、デバイスのデフォルトのデコード遅延レベルを選択します。

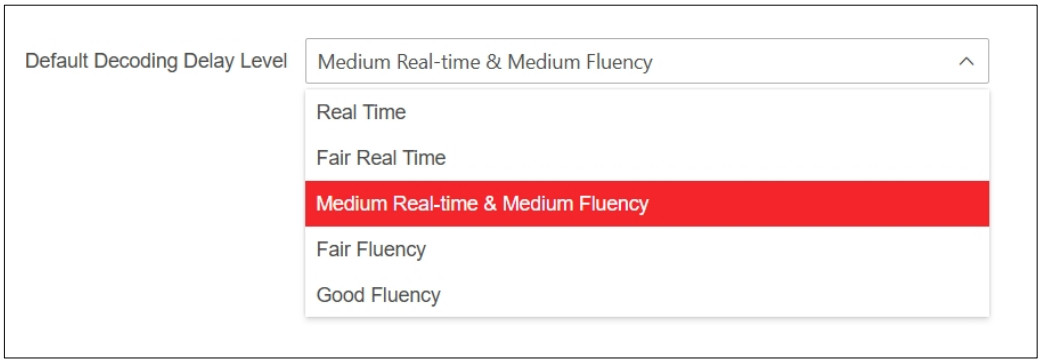


Figure 5-26 デコード遅延レベルの設定

5.6 デバイスのメンテナンス

5.6.1 View Device Status

[概要] をクリックして、デコードリソースの状態、ネットワークの状態、デバイスの状態、およびサブシステムの状態を表示します。

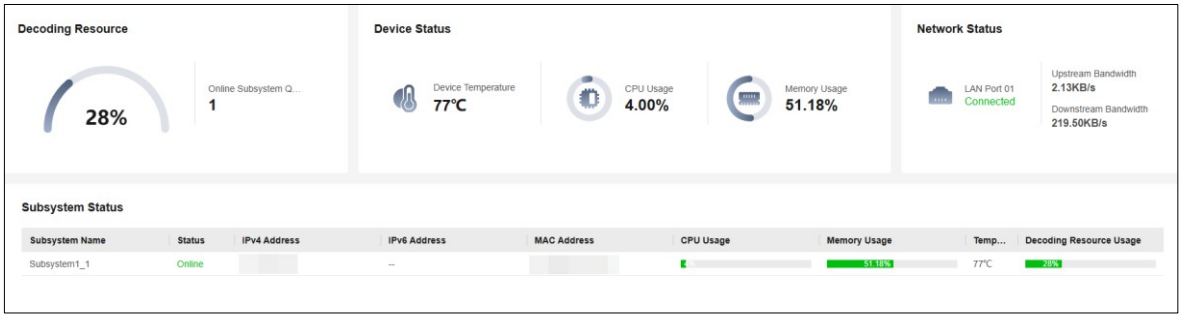


Figure 5-27 デバイスのステータスを表示する

5.6.2 Configure System Parameters

[設定] → **[システム]** に移動し、以下のパラメータを設定します：

● 「**システム設定**」→「**基本情報**」に移動して、デバイス情報を確認し、必要に応じて
必要に応じてデバイス名を編集できます。「**アップグレード**」をクリックすると、デバイスのアップグレードページに移動します。

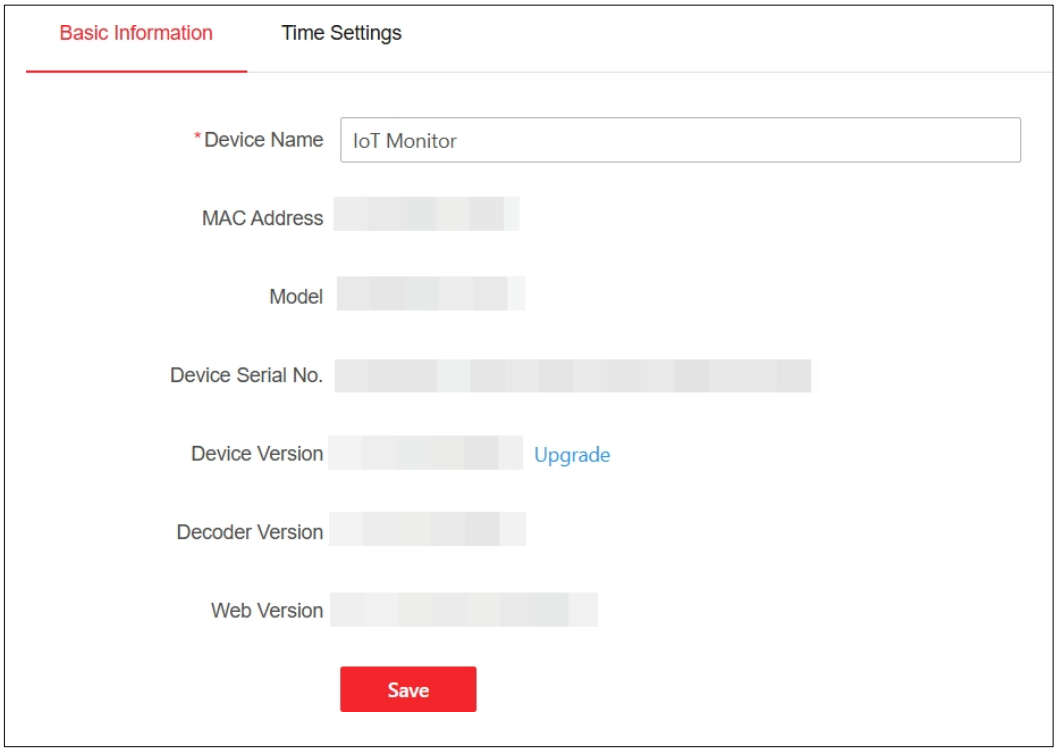


Figure 5-28 基本情報の表示

● 「**システム設定**」→「**時刻設定**」に移動し、「**NTP 同期**」を選択すると、指定した間隔でデバイスの時計が NTP サーバーの時計と同期されます。

— NTP サーバーのアドレスとポート番号を設定します。

— NTP サーバーのアドレスとポート番号を設定します。

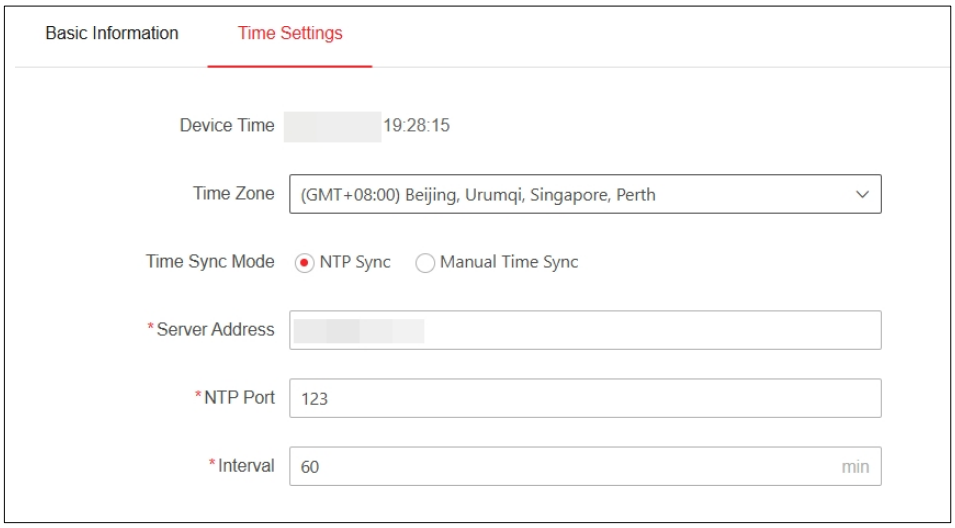


Figure 5-29 「NTP 同期」を選択

- 「**時刻設定**」ページで「**手動時刻同期**」を選択した場合、「**コンピュータと同期**」をクリックすると、デバイスの時刻をコンピュータの時刻と同じにすることができます。

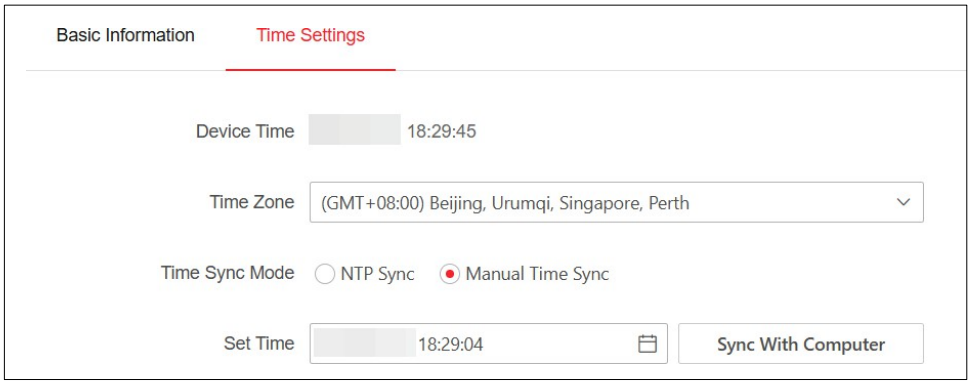


Figure 5-30「手動時刻同期」を選択

- [**時刻設定**] ページで、[DST (夏時間)] を有効にすると、夏の間、デバイスの時計は指定された時間だけ進められます。

  — 開始時刻と終了時刻を設定します。

  — バイアス時間を設定します。

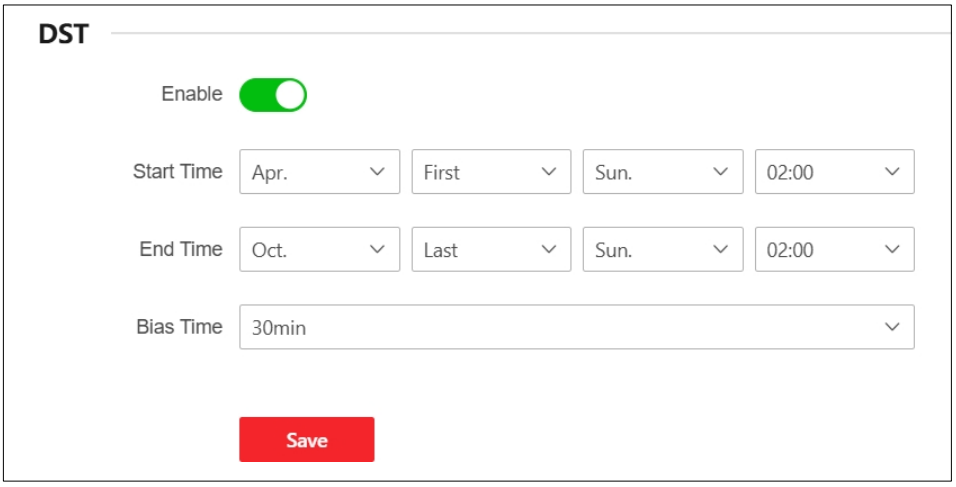


Figure 5-31 DST を有効にする

- **[ユーザー管理]** → [ユーザー管理] に移動して、ユーザーの追加、ユーザー名やパスワードの編集、ユーザーの削除を行います。ユーザータイプが「管理者」の場合、編集や削除はできません。

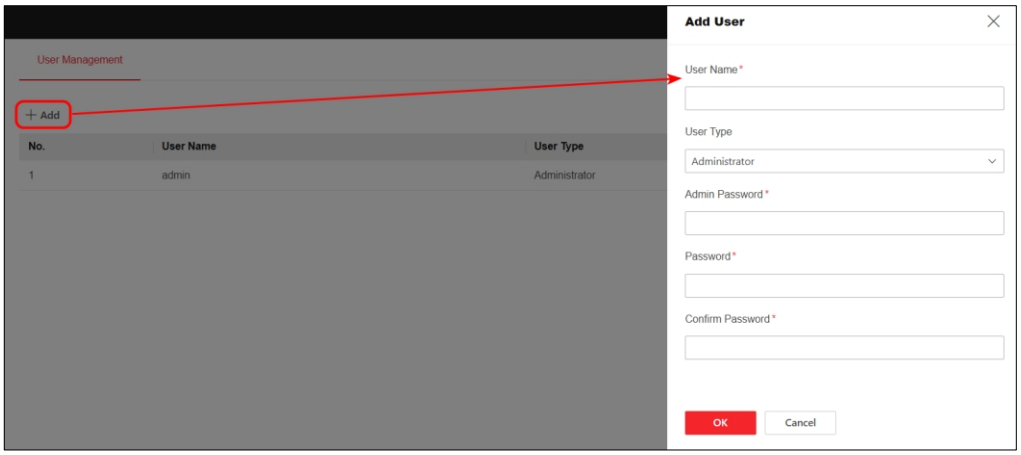


Figure 5-32 ユーザーの管理

- シリアルポートの設定：**「シリアルポート設定」**→**「メインノードのシリアルポート」**に移動し、シリアルポートのパラメータを設定します。

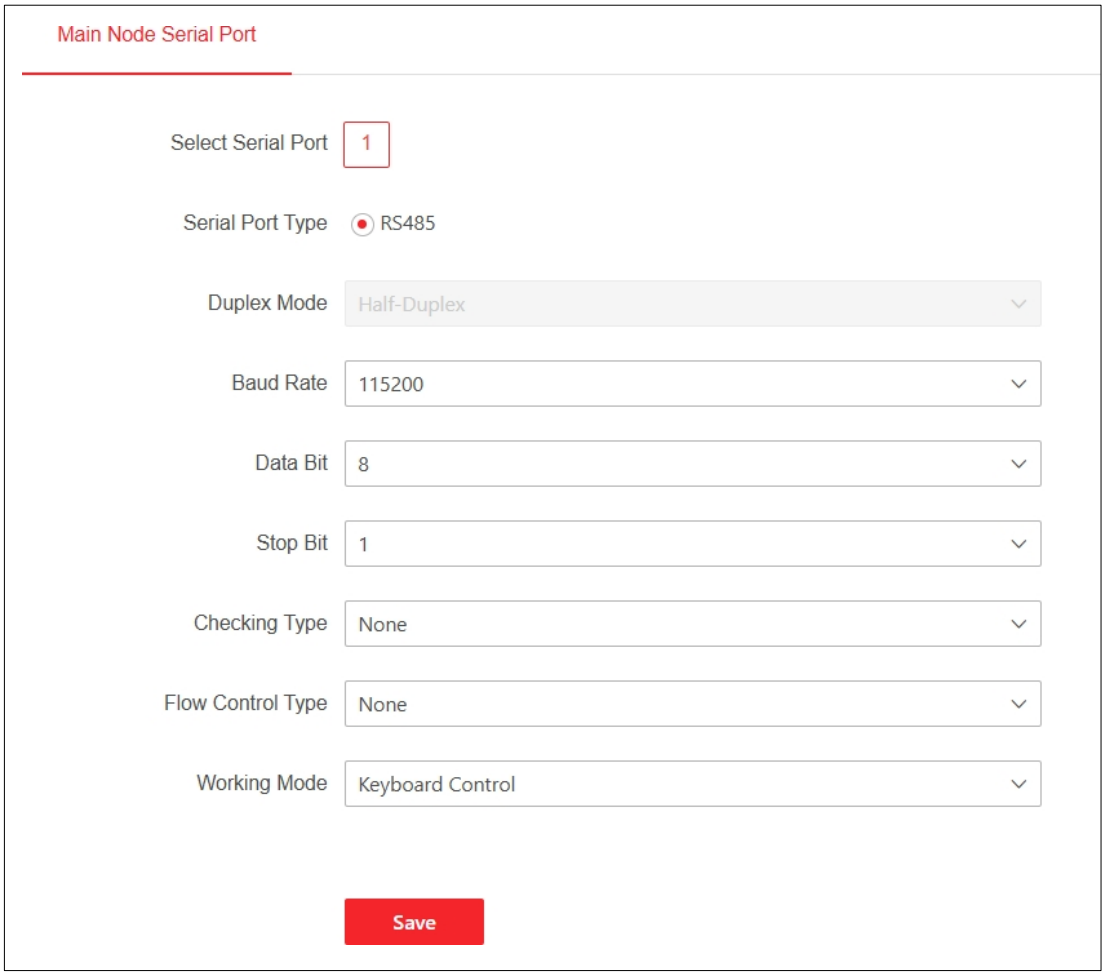


Figure 5-33 シリアルポートパラメータの設定

5.6.3 Configure HTTP(S) Parameters

Step 1 **[設定]** → **[ネットワーク]** → **[ネットワークサービス]** → **[HTTP(S)]** に移動します。

Step 2 HTTP ポート番号を設定します。

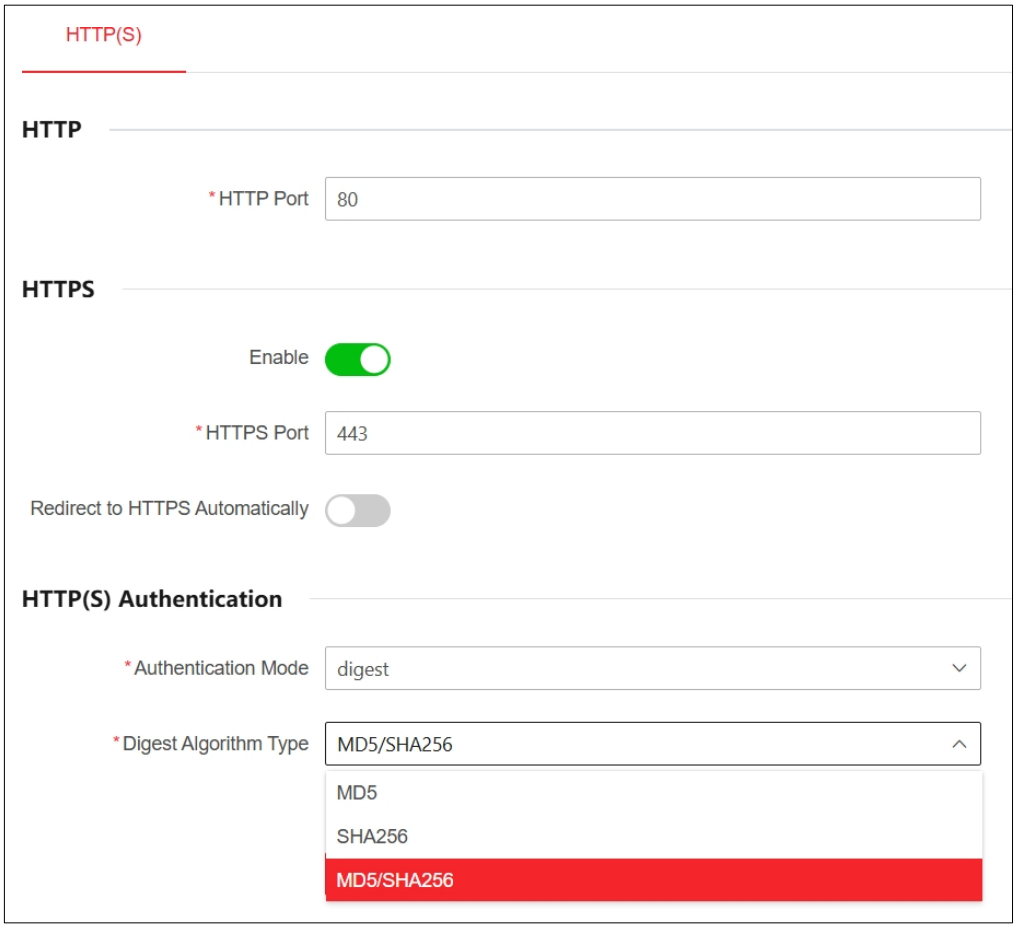
ポート番号は 80 または 2000 から 65535 までの任意の値に設定できます。HTTP ポートを編集した後、ブラウザに「HTTP://デバイスの IP アドレス: ポート」と入力して、デバイスにアクセスする必要があります。

Step 3 HTTPS を有効にしてから、HTTPS ポートを設定してください。

デフォルトのポート番号は 443 です。HTTPS ポートを編集した後、デバイスにアクセスするには、ブラウザに「HTTPS://デバイスの IP アドレス: ポート」と入力する必要があります。

Step 4 （オプション）**「HTTPS への自動リダイレクト」**を有効にします。これにより、デフォルトで HTTPS 経由でのデバイスへのアクセスが使用されます。

Step 5 必要に応じてダイジェストアルゴリズムの種類を選



択します。Step 6 [**保存**] をクリックします。

Figure 5-34 HTTP(S) パラメータの設定

5.6.4 Configure Event

[Configuration] → **[イベント]** に移動し、デバイスの最高および最低温度のしきい値を設定し、異常イベントが発生した際の音声警告およびプラットフォームへのアラーム報告を設定します。

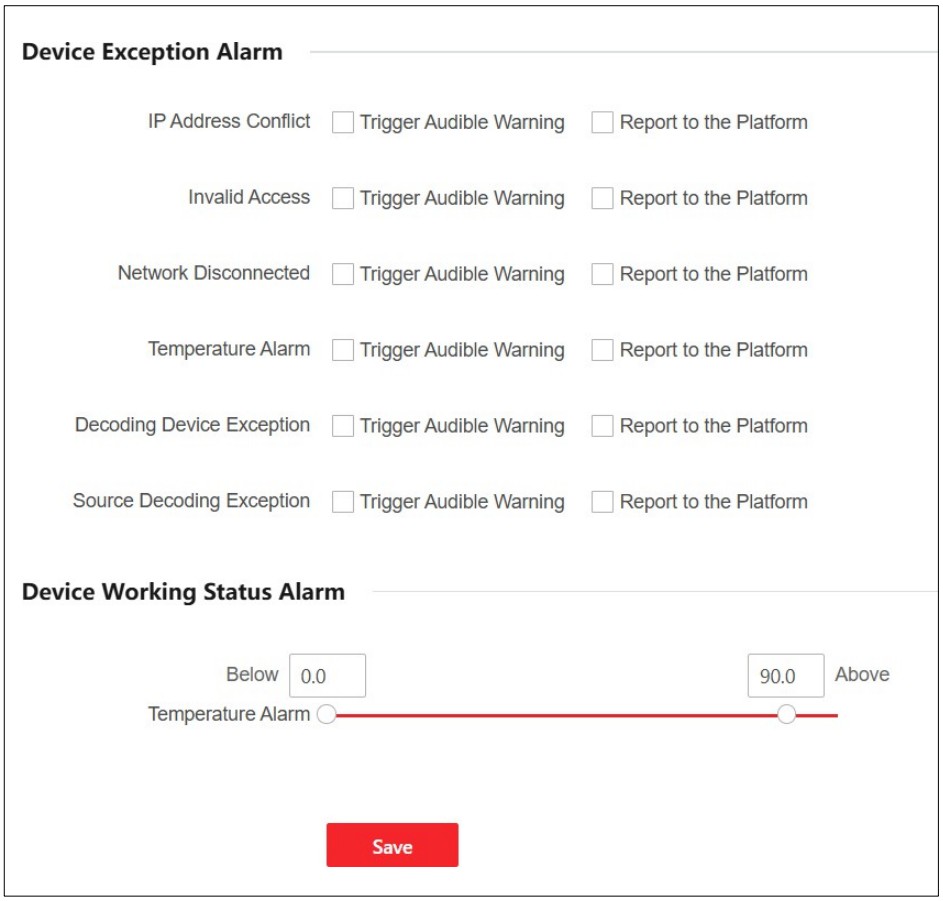


Figure 5-35 デバイスの異常アラームを設定する

5.6.5 Maintain the System

「メンテナンスとセキュリティ」→**「システムメンテナンス」**に移動し、以下のパラメータを設定してください。

- **「再起動」**ページで、**「再起動」**をクリックしてデバイスを再起動します。

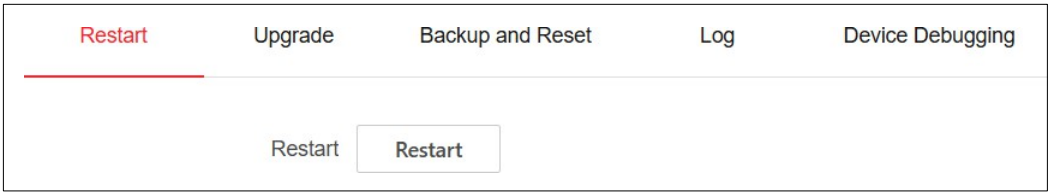


Figure 5-36 デバイスの再起動

- 「**アップグレード**」ページで、「 」をクリックしてアップグレードファイルを選択し、「**アップグレード**」をクリックします。アップグレードファイルは事前に取得し、ローカルに保存しておく必要があります。

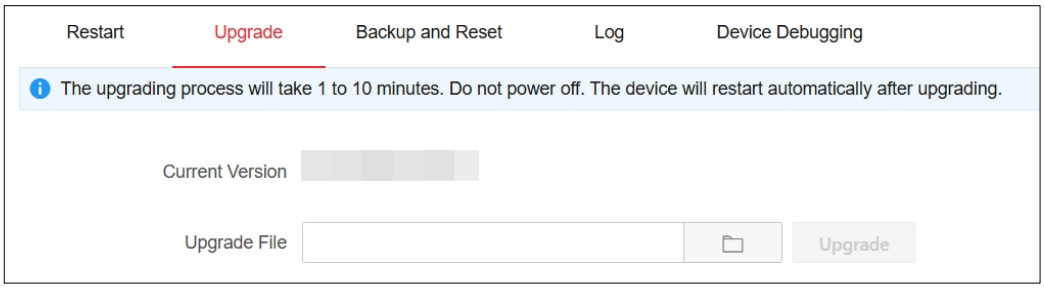


Figure 5-37 システムのアップグレード

● [**バックアップとリセット**] ページで、デバイスのパラメータとシーンのパラメータをバックアップします。

— [**Export**] をクリックし、暗号化パスワードを入力して、デバイスパラメータをバックアップします。

— [**エクスポート**] をクリックして、シーンパラメータをバックアップします。

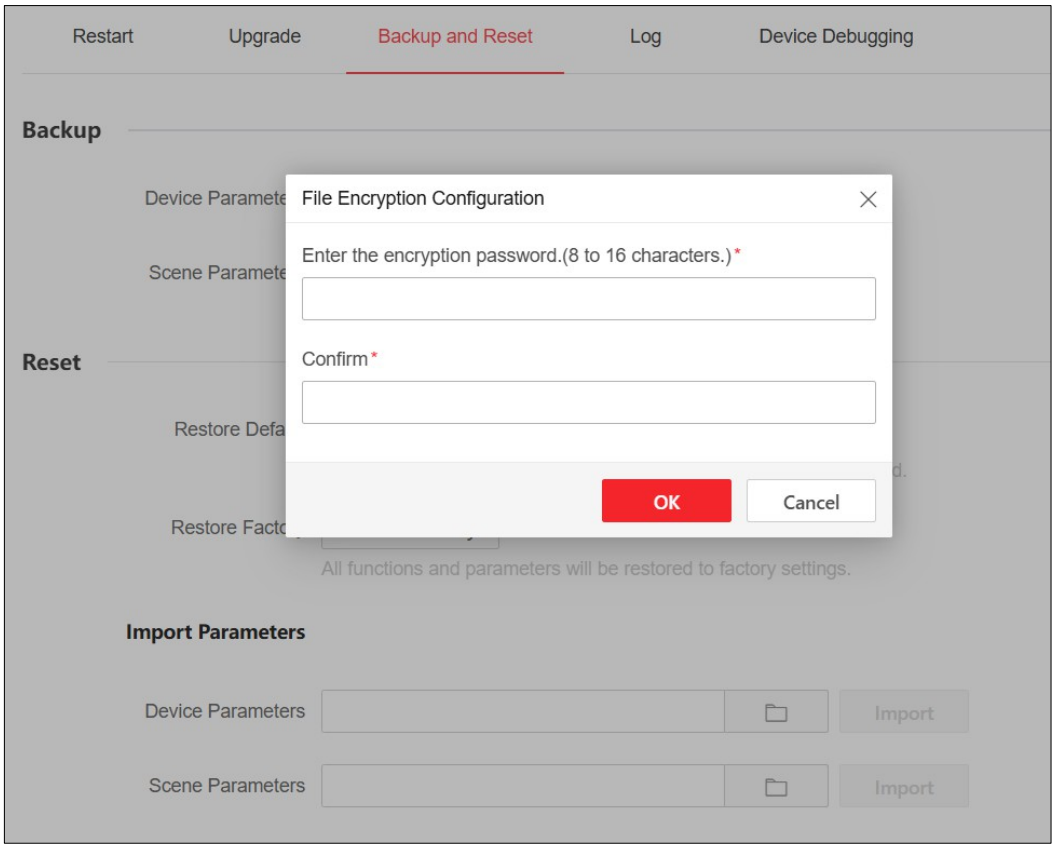


Figure 5-38 デバイスパラメータのバックアップ

● [**バックアップとリセット**] ページで、デバイスをリセットします。

— 「**デフォルトに復元**」をクリックすると、ユーザー情報およびネットワークパラメータを除くすべてのパラメータがデフォルト設定に復元されます。この機能は慎重にご利用ください。

— 「**Restore Factory**」をクリックすると、デバイスのすべての機能とパラメータが工場出荷時の設定に復元されます。この機能の使用には十分ご注意ください。

— 「 」をクリックしてローカルに保存されたパラメータファイルを選択し、**「Import」**をクリックしてデバイスパラメータをインポートします。デバイスパラメータをインポートする際は、エクスポート時のデバイスパラメータの暗号化パスワードを入力してください。

— 「 」をクリックしてローカルに保存されたパラメータファイルを選択し、**「Import」**をクリックしてシーンパラメータをインポートします。

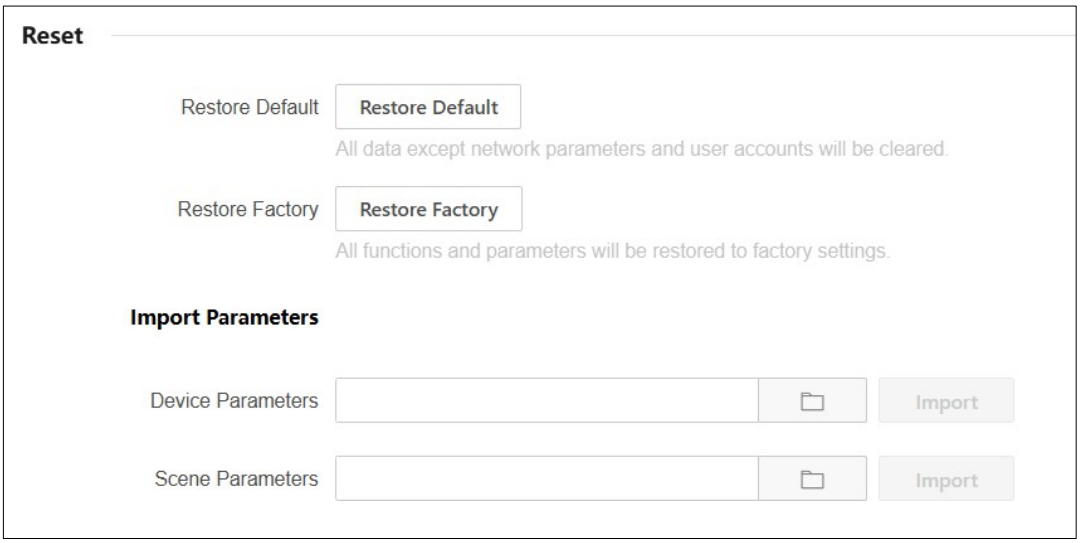


Figure 5-39 デバイスのリセット

● [**Log**] ページで検索条件を設定し、**[Search]** をクリックします。検索されたログは下のリストで確認できます。**[Export CSV File]** をクリックすると、検索されたログをエクスポートできます。

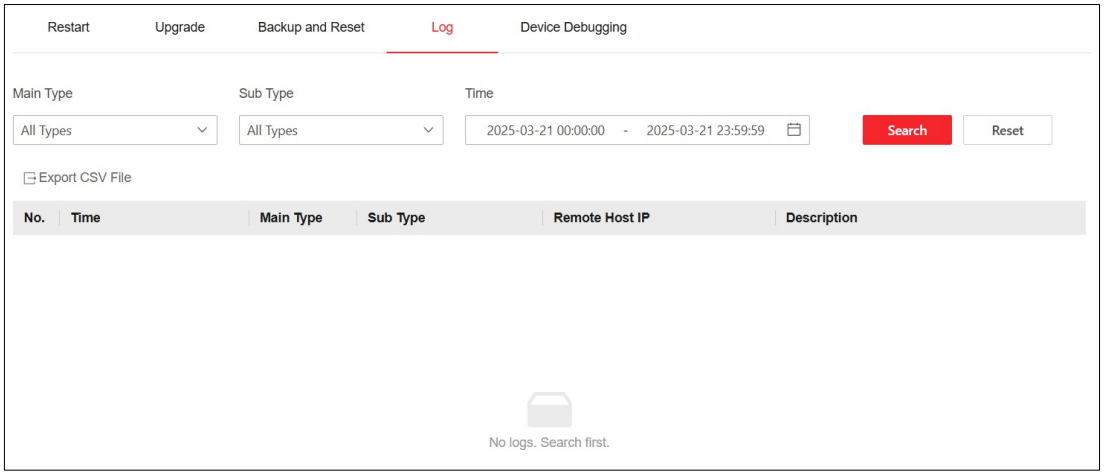


Figure 5-40 ログの検索

● 「**Device Debugging**」ページで、以下のパラメータを設定します。

— 必要に応じて SSH (Secure Shell) を有効にします。SSH を有効にした後は、ポート番号を設定する必要があります。SSH を有効にすると、SSH クライアントがインストールされたコンピュータからデバイスにアクセスできます。

— **「エクスポート」**をクリックすると、ローカルに保存されたデバッグログファイルがエクスポートされます。

— サブシステムを選択し、「**キャプチャ開始**」をクリックすると、取得したパケットキャプチャファイルをダウンロードできます。

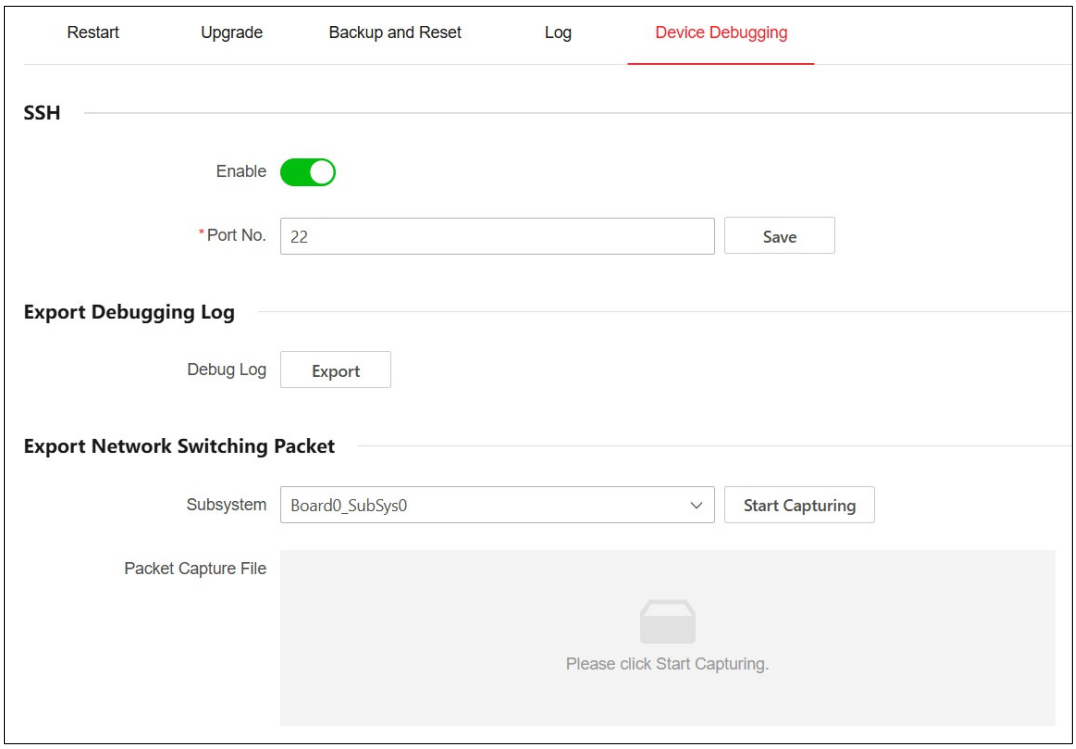


Figure 5-41 デバイスのデバッグ

5.6.6 Maintain Device Security

[**メンテナンスとセキュリティ**] → [**セキュリティ管理**] に移動し、以下のパラメータを設定します:

- IPフィルタリング制御を有効にし、デバイスへのアクセスを許可または禁止するIPアドレスを設定します。

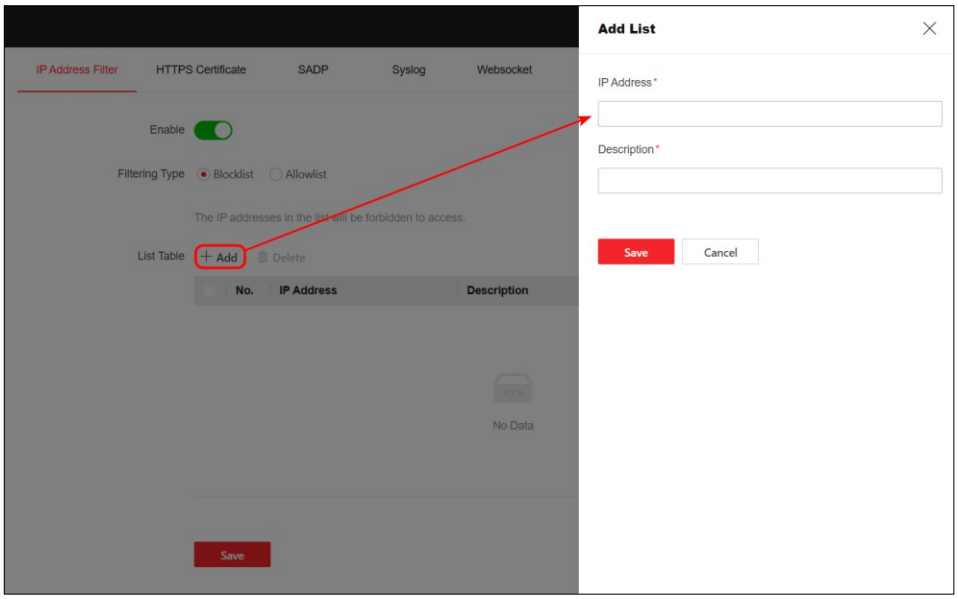


Figure 5-42 IP アドレスフィルタの設定

● ローカルに保存されているHTTPS証明書と秘密鍵をインポートします。

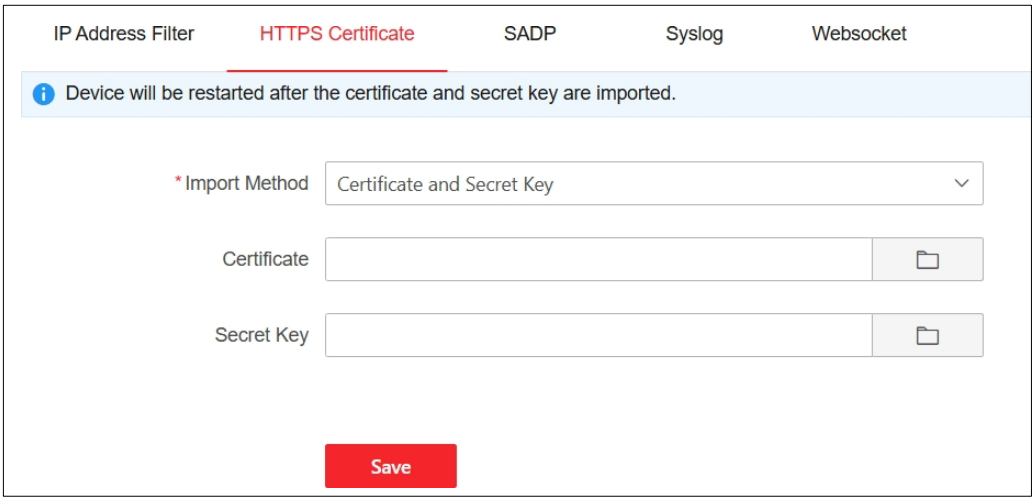


Figure 5-43 HTTPS証明書と秘密鍵のインポート

● 必要に応じてSADPを有効にしてください。SADPを有効にすると、デバイスがコンピュータと同じネットワークセグメント内にある場合に、SADPソフトウェアを使用してデバイスを検索できます。

● 必要に応じて Syslog を有効にします。Syslog を有効にすると、デバイスのログを Syslog サーバーにアップロードできます。

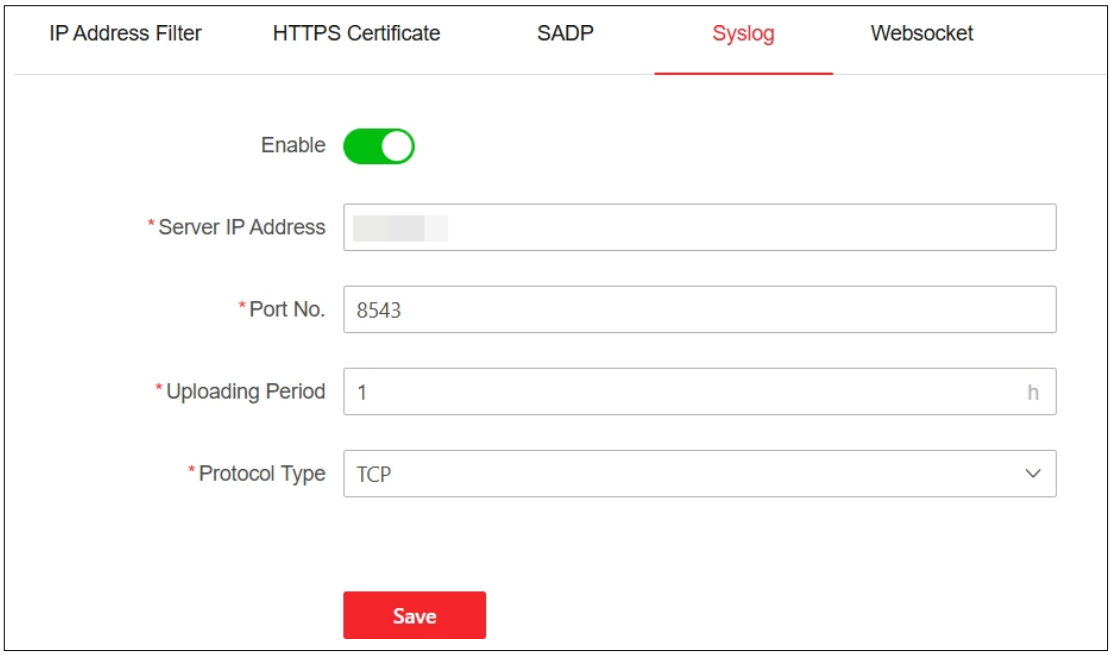


Figure 5-44 Syslogを有効にする

- 必要に応じてWebSocketを有効にしてください。WebSocketを有効にすると、ネットワーク信号ソースのストリームをエクスポートできます。

遠くを見据え、さらに先へ
Go

UD42340B-A